平成17年第6回佐渡市議会定例会会議録（第4号）

平成17年12月7日（水曜日）

議事日程（第4号）

平成17年12月7日（水）午前10時00分開議

第1 一般質問

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（55名）

1番	松本展国君	3番	本間勘太郎君
4番	中村剛一君	5番	白杵克身君
6番	島倉武昭君	7番	木村悟君
8番	稲辺茂樹君	9番	金田淳一君
10番	白木優君	11番	山本伊之助君
12番	浜田正敏君	13番	廣瀬擁君
14番	大谷清行君	15番	小田純一君
16番	末武栄子君	17番	小杉邦男君
18番	池田寅一君	19番	大桃一浩君
20番	中川隆一君	21番	欠員
22番	岩崎隆寿君	23番	高野庄嗣君
24番	羽入高行君	25番	中村良夫君
26番	石塚一雄君	27番	若林直樹君
28番	田中文夫君	29番	金子健治君
30番	村川四郎君	32番	名畑清一君
33番	志和正敏君	34番	金山教勇君
35番	白木善祥君	36番	渡邊庚二君
37番	佐藤孝君	38番	金光英晴君
39番	葛西博之君	40番	猪股文彦君
41番	川上龍一君	42番	本間千佳子君
43番	大場慶親君	44番	金子克己君
45番	本間武雄君	46番	根岸勇雄君
47番	牧野秀夫君	48番	近藤和義君
50番	本間勇作君	51番	祝優雄君
52番	兵庫稔君	53番	梅澤雅廣君

54番	竹内道廣君	55番	渡部幹雄君
56番	大澤祐治郎君	57番	肥田利夫君
58番	加賀博昭君	60番	浜口鶴藏君

欠席議員（4名）

2番	大石惣一郎君	31番	高野正道君
49番	熊谷実君	59番	高岩野一則君

地方自治法第121条の規定により出席した者

市長	高野宏一郎君	助役	大竹幸一君
助役	親松東一君	総務課長	齋藤英夫君
財政課長	浅井賀康君	市民課長	青木典茂君
企画情報課長	中川義弘君	社会福祉課長	熊谷英男君
環境保健課長	大川剛史君	医療課長	木村和彦君
農林水産課長	本間俊一郎君	観光商工課長	市川求君
建設課長	佐藤一富君	水道課長	田畑孝雄君
会計課長	粕谷達男君	選管・監査事務局長	菊地賢一君
農業委員会会長	永井忠昭君	農業委員会事務局長	渡辺兵三郎君
教育長	石瀬佳弘君	教育委員長	豊原久夫君
教育委員会学校教育課長	鹿野一雄君	教育委員会生涯学習課長	坂本孝明君
選挙管理委員会委員長	林千隆君	消防長	加藤侑作君
両津支所長	末武正義君	相川支所長	大平三夫君
佐和田支所長	清水紀治君	新穂支所長	齋藤正君
畑野支所長	荒芳信君	真野支所長	山本真澄君
小木支所長	斉藤博君	羽茂支所長	古田英明君
赤泊支所長	渡辺邦生君	代監査委員	清水一次君

事務局職員出席者

事務局長	佐々木均君	事務局次長	山田富巳夫君
議事係長	中川雅史君	議事係	松塚洋樹君

午前10時00分 開議

○議長（浜口鶴蔵君） おはようございます。ただいまの出席議員53名。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問

○議長（浜口鶴蔵君） 日程に従い一般質問を行います。

質問並びに答弁は簡潔にお願いいたします。

順位に従いまして、金光英晴君の一般質問を許します。

金光英晴君。

〔38番 金光英晴君登壇〕

○38番（金光英晴君） おはようございます。昨日までの格調高い質問に比べ、ちょっとレベルの低い質問になろうかと思いますが、市長におかれましては面倒がらずご答弁賜りますよう、まづもってお願い申し上げます。

銀行の不良債権処理が進み、企業のリストラの効果か、中央では景気が回復し、株価が1万5,000円を超え、バブルの轍を踏む心配をしているとの経団連の奥田会長のコメントがニュースに流れました。一方、地方の経済は先が見えぬ三位一体の改革や過疎化の流れに歯どめがかからず、ちょうど今この季節のように厳しい冬を迎える状態であろうかと感じております。それを証明するかのようになり、12月3日の某新聞に、経済産業省が12月2日に発表した報告書、地域経済シミュレーションの記事が掲載されておりました。記事によれば、報告書は全国の市町村を通勤や公的インフラの提供などでまとまりがある269の都市雇用圏に区分し、2000年を基準とし、2030年における農業や商業、製造業などの生産による地域内総生産を推計したものであります。我が新潟県では、10のブロックに区分され、いずれも縮小の見通しとのことでありました。糸魚川の29.3%、村上市18.3%、上越市16.7%、十日町市16.6%、柏崎市15.4%、五泉市10.9%、燕市10.2%、三条市6.9%、長岡市6.0%、新潟市4.9%それぞれの減となっております。残念ながら佐渡地域については記載ありませんでしたが、推して知るべしでしょう。また、報告書では、地域での確な取り組みがなければ地方財政が悪化し、遊休施設がふえ、住みにくい都市構造になり、個別の市町村は公的なサービスの提供などについて選択と集中を図り、地域経営すべきと指摘しています。

冒頭から暗い話題で恐縮ですが、私はこの12月議会が始まる前までは佐渡市の未来にわずかではございましたが、期待を持っておりました。ところが、昨日までの市長のご答弁をお聞きし、失望してしまいました。ご答弁は、質問によってぶれていましたし、佐渡をどのようにするのかについては、抽象的なご答弁でした。また、機構改革については助役2人制にした意味も全く理解されていなく、部長制にすればすべてが解決するかなのようなご答弁で、時代に逆行するような改編であることにお気づきではないのかと思えてなりません。こう感じたのは私だけでしょうか。

私は、合併協の財政計画に疑問を持ち、昨年6月議会に財政計画と新市建設計画の見直しについて質問して以来、ずっとこのテーマで質問してまいりました。私の質問が未熟で、意図することがお伝えできなかったせいもあるのですが、昨年6月の市長のご答弁は、合併の約束でもあるしという、見直しには消極的なものであり、9月以降も国の改革のスピードが速くてとか、そういったたぐいのもので大変後ろ

向きなご答弁でありました。ところが、昨日の同僚議員へのご答弁は、想定内か否かはわからないが云々、財政計画の見直しに早くから対応してきたとのことでありました。ころころと変わるご答弁に不信感を感じましたし、想定内云々の表現については怒りさえ感じました。しかし、合併を実現させるために、うそを承知で島民をだましたとするならば、政治家として敬意を払うところでありますが、真相はどちらなのでしょうか。

財政の見直しについて、財政計画をきちんとしていけば将来は明るいと、昨日市長のご発言がございました。本当にそうお思いになるのでしょうか。もしそう思われているのであれば、8年後には合併の特例が切れますが、5年間の調整期間についてどのように見通されているのか、お聞かせください。佐渡市の人口は、年間約1,000人減っております。特例が切れる8年後には、6万自治を念頭に置かなければならないと思いますが、市税、人件費、普通建設事業費、物件費の見直しについてお伺いいたします。

次に、総合開発計画についてお尋ねいたします。基本計画については、今議会にお示しいただけるお約束でしたが、いかがしたのでしょうか。市長は、どのような島づくりを目指すのか、エリア構想を含め具体的にご答弁をお願いいたします。新市建設計画は、特別委員会でも議論され、今議会で中間報告が予定されておりますが、政策的な事業が多く、全体が見えないので、市長のお考えをお尋ねいたします。また、人口減や評価見直しにより、市税の減収が予想されますが、どのような施策を講じるのかお尋ねいたします。

次に、機構改革と意識改革についてお尋ねいたします。5日の同僚議員の質問で指摘がなされておりましたが、私も市の催す事業が消化ゲーム化しているように思えてなりません。その事業の目的や意義を考えず、ただ仕事をこなせばよいと考えているのか、ふだんの業務をこんな意識でしているのかと思い、背筋の寒くなった事例を紹介いたします。

10月27日にアミューズメント佐渡で式典を、そしてオートパーク佐和田で植樹を行う植樹祭がありました。式典での来賓のあいさつの中で、きょう植えた木が林になり、やがて森になりというくだりがありました。式典を終え、植樹会場へ、そこは旧佐和田町が整備したオートキャンプ場でありました。まず、来賓と市長とで市の木、アテビの記念植樹をし、その後参加者がそれぞれ落葉樹を植えました。そこは芝生が覆っていた場所にあらかじめ土をほぐしてあり、前もって各自に渡されていた竹製のスコップで穴を掘り、植えました。穴の間隔は、狭いところで60センチぐらいのところがあったかのように思います。近くにいた職員に、どうしてお金をかけて整備した場所に植林しなければならないのかと尋ねたところ、都会の人たちは木陰を求めて来るからと返ってきました。主催者によれば、用意した木は300本とのことであります。

さて、皆さん、何かおかしいと思いませんか。つけ加えますと、9月議会には同僚議員から、漁民が積極的に植林をしている地域もありますよという提言があったばかりなのですが、漁師として参加していた人はいたのでしょうか。さて市長、この事業は佐和田支所の仕事ですか、それとも本庁の管轄ですか、最終決裁はどなただったのですか。意識改革については、以前にも事例を挙げて指摘したのですが、庁議の場でお話いただいているのでしょうか。今回は、多くの議員が機構改革について質問をしておりますので、ダブらないよう再質問で細かくお尋ねいたしますので、ここでは通告してあります支所のあり方について、業務の見直し、意識改革に市長のリーダーシップをどう発揮されるのか、また田村先生の研修を行

ってみて多くの職員の意見、要望が出されていますが、それを踏まえて今後の研修のあり方についてどのようなお考えなのか、お尋ねいたします。

最後に、指定管理者制度についてお尋ねいたします。先ほどお話しいたしました地域経済シミュレーション報告に、個別の市町村は公的なサービスの提供などについて選択と集中を図り、地域経営すべきとありましたのは、国からの強いメッセージと受け取れますが、市長はどのようにとらえられますか。温泉施設や宿泊施設などを公の施設としての存廃の議論もせず、指定管理者制度に移行したのは改革を2年先送りしてしまったことになると思いますが、前回の反省と今後の取り組みについてお尋ねし、演壇での質問を終わります。

再質問は、質問席にてさせていただきます。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君の一般質問に対する答弁を許します。

高野市長。

〔市長 高野宏一郎君登壇〕

○市長（高野宏一郎君） おはようございます。それでは、早速金光議員の質問にお答えします。

最初に、質問ではないのですが、新聞の例の経済産業省の発表した数字をおっしゃられました。確かに佐渡は出ていないのですが、糸魚川地区ともしオーバーラップするところがあるとすれば30%ぐらいの経済規模になるのではないかとということでございます。今の佐渡島の人口の減を考えると似たり寄ったりの勢いではないかと、人口が減れば当然地域の活性化が減り、すべての生産額が落ちるわけでございますので、そういう意味では現在500億という一般会計の当初予算が10年後には大体400億ぐらいかなと、それから15年後には300億ぐらいとすると予算規模としては大体6割ぐらいになる可能性も十分あるのではないかなと思ひ、それとオーバーラップして考えてみたところであります。合併していいのかどうかということについては、もうこれ合併してしまっておりますので、先に論を進めたいというふうに思ひます。

個人住民税では、定率減税縮減や老年者の控除廃止など、そういう意味では市税についての税制改正による増収は見込まれますほか、平成19年度以降においては所得税から個人住民税への税源移譲に伴う増収が見込まれていますが、基幹税目の一つである固定資産税では来年度評価替えの年になっておりまして、長引く地価の下落と家屋の経過年数の減価の影響により減収が見込まれ、市全体としては大きく伸びるなんていうことはないというところでございます。詳細、課長に説明させます。

人件費の見込みについては、17年度の人勸や勸奨退職制度、退職者の不補充、定数削減等を図り、総体的に人件費の抑制に努めたいと考えております。普通建設事業費につきましては、合併時の新市の建設計画における10年間で1,605億円でしたが、財政計画の見直しにより10年間で約630億円を削減させる必要があるというふうに見込んでおります。

物件費につきましては、電算経費やケーブルテレビの設備など行政情報システムの運営、維持経費によって一定程度の増加の要素はありますが、できるだけ合併によるスケールメリットの利点を生かし、行政改革を進め、さらに削減させなければいけないというふうに思ひます。

それから、どういう島づくりを目指すのかというのは何度も申し上げているのですが、抽象的でありませんが、包括的には豊かな自然と薫り高い文化を大切に活気あふれる新しい島づくりということでございますが、個々には今まで述べましたように基幹産業である1次産業、観光産業の振興と地域が協力する

ことによって、さらに老人福祉施設等の拡充、充実、学校等の誘致などで市民が参加できる地域社会、それを環境のいい島で取り組むということを考えておるわけでございます。

新市の建設計画の見直しについては、先ほども議員もおっしゃられたように、国の影響も非常にありましたことによって大きく見直しが迫られております。この変化は非常に大きくて、我々佐渡市のような国の影響を、税源が非常に少なく、体力の弱いところは国の意向によって非常に大きく変化を受けます。これに合わせて速やかに体質を変えるという仕組みが必要であるということを考えておりますので、ご理解いただきたいというふうに思います。細かいことは、この後担当から説明させたいというふうに思います。

その中で、市税が固定資産税の減少が予想されますがということですが、この対策も含めて市民課長から答弁させます。

それから、支所のあり方についての件で、植樹祭の例を挙げられました。支所というのは住民との直接の窓口でもございますし、本庁は管理執行部門、支所は佐渡市の総合窓口としての地域密着型のサービスを行うことが必要であります。それぞれに佐渡が一つになったということ意識した職務の執行が非常に大事であるわけでございますが、なかなか急にはそういうふうにはなりません。しかし、先ほども言われましたように、この後研修のところでもありますけれども、仕事をやりながらの研修、それから外部から血を入れることの研修あるいは外部へ出かけていっての研修、それぞれ取り組みをあわせて意識改革に努めていきたいというふうに考えておりますし、特にこの間の田村先生のと時のアンケート調査にも若い人たちからいろんな活発な意見が出ております。そういうことも含めて研修の内容を充実させていきたい、この詳細については総務課長の方から説明させたいというふうに思います。

指定管理者制度について、確かに前回出させていただいた指定管理者制度の導入については非常にまだ理解も薄くて、あるいは対応が適切でなかったところもたくさんありました。非常にご迷惑をおかけしまして申しわけないと思っておりますが、これからその反省点を生かして課題を明確にし、効果が十分出るように対応をしていきたいというふうに考えております。

○議長（浜口鶴蔵君） 浅井財政課長。

○財政課長（浅井賀康君） お答えいたします。

財政見通しにつきまして、議員の方からは今後8年間結局合併の交付税の特例的な算定がえの措置のみいっぱいといいますか、措置される期間、その後さらに5年間の削減期間があるわけですが、そうした取り組みの中でどのように市税あるいは人件費とか普通建設事業、物件費を見通しておるのかということですが、基本的には今年度で見ますと市の財政の、さらに歳入構成の中でウエートの高い普通交付税見ますと192億円であったものが1本算定になりますと146億円であります。そうした状況を加味して考えていくと今後三位一体の改革で国庫補助金であるとか、あるいは負担金だとか、そうしたものが当然税源の方にはね返ってくると、ただ税収としては当然議員の方のご指摘もありましたが、人口減少等によってそんなに伸びというものは期待できないということになってくると思いますし、さらに人件費であるとか普通建設事業等につきましてはスクラップ・アンド・ビルドという形、あるいは人件費は特に定員管理等の中できちっと削減の見通しを立てて進めていく必要があるのではないかなというふうに考えております。

また、物件費につきましても今後施設の統廃合を含めて整理というものを行って、維持管理経費等縮小

というものを当然進めていくことが大事ではないかというふうに考えております。よろしく申し上げます。

○議長（浜口鶴蔵君） 中川企画情報課長。

○企画情報課長（中川義弘君） 新市建設計画の見直しについてということでお答えをしたいと思います。

ご指摘のとおり合併後の国の三位一体改革により、大変大きな収入が減となっております。それに伴いまして、財政計画を財政課の方で見直しをしておるわけですが、それに伴い我々も建設計画の削減をしたいということにしております。先ほど市長もご答弁したとおりに、630億という10年間で大きな削減をしないといけないことになっておるわけですが、この仕事に昨年から取っついております。17年度のときに1回、現在も財政計画にのっとりまして2回見直しをしておるわけですが、大変大きな額をしないといけないということで、大変な目になっておるのが中身でございます。この間、小学校の統廃合あるいは生涯学習関連施設の整備、保育所の統合、それから市役所の整備等々検討委員会で検討いたしておりますし、各地区の地域審議会の中でもご審議をいただくということになっております。また、今回の12月定例会の中でも新市建設特別委員会の中間報告が出されるということを知っておりますので、その中間報告を聞いて我々も慎重に見直しを進めていきたいという、そういう手はずでおりますので、よろしく申し上げます。

それから、あと1点、総合開発計画の基本計画を12月議会に提出をするという話を今まで進めてきたわけですが、そういう手はずで進んでおりました。9月の定例会には基本構想というのをお認めいただいたわけですが、それに基づいて各部で審議を終わりました。現在各部での審査は全部終わっておるわけですが、合同審査等がまだ遅れておる状況でございますので、大変申しわけないのですが、今のところこういった素案しかできていない状況でございます。この後早急にまた審議会を進めて、早いうちにご提出したいというつもりでおりますので、よろしく願いいたします。

○議長（浜口鶴蔵君） 青木市民課長。

○市民課長（青木典茂君） お答えいたします。

固定資産税が下がるという見通しでございますが、これ現実には18年度評価替えあるわけでございますが、平成17年1月1日以降ずっと下がり続けております。地価が下がり続けておるわけでございますが、その影響がございまして、多分18年度についてもこの影響は避けられないと、そんなふうに見ております。

それから、家屋についても、やはり古い建物が多くなって新しい建物が建てられないということがございまして、その部分の残存価格の低下によりまして市税が下がると、固定資産税が下がると、このことが予想されます。そのために、まず対応策といってもなかなか難しいわけですが、税務サイドとしましては市税をいかにいっぱいこといただくかと、賦課したものを徴収するかということでございますが、18年度の機構改革によりまして長年といいますか、我々の希望でありました税務課の独立ということもされておるようございまして、我々それに基づきまして徴収事務の徹底を図りたいと、そんなふうに短期的には考えております。それから、長期的にはやはり市民の方々が産業についても、あるいは定住についても活力のある佐渡市になっていただくと、総合計画を順次行うことによりまして、やはり佐渡市の行政課題であります定住人口の増加あるいは起業、地場産業を興していく、こういう計画を進めることによって市税を、固定資産税あるいは市民税を確保していくということについて取り組んでいく、これが一番ベストな方法ではないかなというふうに考えております。

○議長（浜口鶴蔵君） 齋藤総務課長。

○総務課長（齋藤英夫君） それでは、研修の関係につきましてお答えをいたします。

研修につきましては、職層ごとの研修や自己啓発の研修を計画して参加をさせております。しかし、意識改革という部分につきましては、上司と部下が一体となって同じ認識を持ったときに実行され、その効果が発生するわけでありますので、意識改革の研修を今後とも続けていきたいというふうに考えております。

先ほど議員の方からお話のありました田村先生の研修につきましては、10月の12日と28日の2回に分けて、佐渡市の職員1,700名中、約1,000名の方々から参加をしてこの研修を聞いていただきました。アンケートにつきましては、約9割の方からアンケートをいただいたわけですが、いかに職員の意識改革というものが難しいのか、このアンケートを見て私は実感をいたしました。私ども常に改革の意識を持って事に当たるということを常々考えていかねばならぬと思うわけですが、アンケートの中ではさまざまな意見がありました。この意見を踏まえて、私どもさらにきめの細かい研修を続けていきたいというふうに考えております。よろしく申し上げます。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） それでは、順に再質問させていただきます。

先ほど市長10年後の市の予算が大体400億ぐらい、15年後300億ぐらいではないかというようなお考えを聞かせていただきましたけれども、財政課長から出ている部分でいきましたも、ちょっとこの10年後、10年後というのは25年を指すのか、今から10年後を指すのか、その辺ちょっと隔たりがあるのですが、それにしても25年にしてもちょっと多いのではないかな、ましてや15年後ということになりますと、当然合併の特例が切れて、あるべき姿になっていくことを考えますと、先ほども演壇で申しましたけれども、6万自治、現在での類団での6万というと大体200億程度、100台のところもありますけれども、大体200億程度なのです。幾ら佐渡が広い、離島だ云々といっても300億というのはちょっとないのではないかな、ちょっと認識が違うのではないか、そうすると当然これから事業をしていくに際して、やっぱり特例が切れて調整期間の済んだ15年後を見通した場合、そこに行き着くためには二つの方法があるかと思うのですが、どちらになるというふうに見通していますか。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） 非常に大ざっぱに申し上げたのは何かというと、例えばここに佐渡の数字が出ていないものですから、糸魚川が3割ぐらい地域経済が落ちるのだろうと、そういう形で10年後を想定するというのは普通なかなかできないわけです。大体数字……

〔何事か呼ぶ者あり〕

○市長（高野宏一郎君） いや、それはそんなことないので、難しいということを申し上げたので、国次第でありますけれども、特に我々の地域は国の影響力を非常に受けるという意味でわかりづらいということです。ですから、かつて15年前はあれだけバブルが大きくなって、世界の中でナンバーワンの資産を持つ国が一挙にここまでしぼむということもあるので、経済というのは必ずしも固定的な考え方でできるわけでもありませんから、その数字の議論をどうこう言うのではなくて、3割減ったということが、我々のそれでは島がどれぐらいのところまでいくのだろうと、そうすると我々の体の縮め方がやっぱりその数字

にも合わせなければだめだということで申し上げただけのことでありまして、わからない数字を言っているわけでもありません。

それから、議員おっしゃられているように類団なのですけれども、この類団ももうちょっと時間がたちませんと合併した形が出てきませんし、そんなに夢みたいなことばかり考える必要もありませんが、そのとき、そのときで柔軟な対応ができるような仕組みをゆっくりつくっておかないと、そうしませんとあしたからその施設をつぶすということはなかなかいかぬわけです。それから、学校についても保育園についても、そう急にはいきません。しかし、それをやらないとそこまで身を縮めることができないわけです。そういう意味でご協力をお願いしたいということです。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） それで、先ほど演壇でご紹介した地域経済シミュレーションが、この時期にぽんと出てくるということはやっぱり国が何なりかのメッセージとして出してくているのかなというふうにとるのが値通常かなという気がするのです。当然合併絡み、特例の切れた合併もこれからさらに進めていくと言っているところにこういったものがぽんと出てくるわけですから、やはりそれをちゃんとメッセージを読み取ってやらなければならない、そうすると今市長おっしゃられるように、逆に市長の見方は大変甘い見方です。きつく見ていて国が改革が緩かったら、それはそれで楽なわけですけれども、逆に甘く読んでいて、いざその時期に行ったら万歳ということでは責任ある政治家の態度とはとれないと思うのですが、その辺もう少し詰めて考えていかなければならないと思うのですけれども、先ほどから聞いています5年間の調整についてどのような考え方があるのか、そしてどちらの方向を期待して見通しているのか、それについてお聞かせください。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） 現在田村先生なんかの意見も入れながら、そこの検討をしているところであります。いろんな問題が浮かび上がってきておりますので、一つ一つつぶしていくと、その着実性がありませんと、やっぱり我々はこの島の中で生きていますから、それだけのことを考えながらやらなければいかぬというふうに思っています。しかし、議員もおっしゃるように、そう簡単な問題でもありませんし、島民全部のそれなりの覚悟ということも非常に大事なことでありますので、議会のご意見も伺いながら進んでいかしていただきたいというふうに思います。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） これをなぜここに私こだわるかといいますと、この数字のとり方によっては、先ほど企画課長が新市建設計画の見直しで600億余りの削減をしなければならないのだというお話がありましたけれども、これがもっとふえるのです。当然その5年間の間に再建団体の扱いでいけば立ち上げ起債ができないわけですから、それ以前に起債残高を減らしておかなければならない、そうすると約100億さらに減らさなければならぬということが考えられるのです。ですから、ここをきちんと見通しておかないと、甘い計画でいったときには事業できないわ、5年間は辛抱の5年間と、当然そのときには市長はおられないから、私関係ありませんよと言うかもしれませんが、行政ですからそういうわけにいかないのです。そこのところをきちんとどういうふうな見通しなのか、財政課長わかりますか。

○議長（浜口鶴蔵君） 浅井財政課長。

○財政課長（浅井賀康君） お答えいたします。

基本的に合併の財政支援がなくなった場合に、財政運営をするためにどの程度の財政規模が適切であるかということについては、基本的に佐渡市の場合特に税収等が少ないわけでありまして、国の依存というのは大きいところで、その中で特に先ほど言いましたが普通交付税等交付税の分野が大きいわけです。そうすると、今三位一体改革で交付税等の改革というのが当然出てくる、これはだんだん厳しいものになってくるのだろうと、というのは17年度の交付税改革等においても行政改革という分野が交付税の中で反映されおられます。そうしたものを考えると一般財源の総額としても相当厳しくなってくるということは想定しておりますが、ただ300億の予算の規模が250が適切であるのか、あるいは議員言われるように200億前後が適切なのか、そうした分野についてはいろいろと議論の分かれるところでもあります。基本的には全体的に厳しい状況は続いていくというふうに認識はしております。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） そういうことを見越して、次に新市建設計画の見直しについて移りたいと思います。

やはりそういうことがあるのだということをお前提にして、これから計画そのものを配置していかなければならない。要するに緊急性の高いもの、どうしても必要なものは前倒しでも前へ持ってくる。緊急性の薄いと言ったらおかしいのですが、これは合併のときの市民とのお約束ですから、急というわけではないのですけれども、もし財政が厳しくなったときにはトカゲのしっぽ切りではありませんけれども、我慢していただくというような、同じ計画にのせておくにしてもやっぱりそこに何かしらの配慮をしておく必要があるのではないか、このように考えるのですが、市長どのように準備なされますか。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） それは、張りつけは張りつけ、それからそれが変化するのは、これはやっぱり外部の我々の歳入状態を見回しながらやらなければいかぬというのは議員がおっしゃるとおりでございます。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） それと、先ほども演壇で申し上げたのですが、この新市建設計画の中には政策的なものが大変多いのですけれども、例えばここだけ財政が厳しくて計画されている事業を見直していくときに、これ例えがいいのかどうか分かりませんが、どうしても予算の都合で陸上競技場と体育館の二者択一をしなければならなかったときに、両方ともこれは政策的な部分が強いですが、どう使っていくかという部分については非常に政策的なものが強いのですが、利用率からいけば当然今のスポーツとか、あとイベントとかを考えれば体育館の方が利用率が高いたろうし、陸上競技場は、では大会をどれだけ持ってこれるかということ、数は少ないというふうになっていくのですが、それだけではないと思うのです。例えば併設されるサッカーコートを利用してサッカーの教室を誘致するとか、今で言えばアルビレックスを連れてきてサッカー教室を開くとか、そうして佐渡の子供たちにサッカーを広めていくという、これはかなり政策的な部分が強い部分ですけれども、そういった部分があって私ども委員としてもなかなか踏み込めない部分があるのですけれども、そういった部分に対して市長からのメッセージというのは何もないのです。先ほども佐渡をどのようにするのですかといったときに、抽象的な部分でしかお答えにならないものですから、ではどの地域に何を張りつけていけばいいのか、市長はエリアをどのようにして発展させ

て、佐渡という一つの島をつくるのかという部分が全然見えてこないのです。市民の皆さんもそれがないがために暗さしか感じていないかと思うのですが、その辺について市長の頭の中にそういった構想がございましたら、聞かせていただきたいのですが。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） 暗くならないように建設的なご意見をよろしく申し上げます。具体的な話は、当初お話ししてありましたように、各地域の一定のバランス、やはり合併協議の中のお約束もあるわけですから、その地域、地域のそれは仕事の問題もあるでしょう。必ずしも理想的とは言えないにしても、地域配置は、例えば県の仕事あるいは民間の仕事、あるいは我々がつくろうとする新市の建設計画の仕事も含めて一定のバランスで当初はやらせていただきたい。それは、そのうちに発表させていただきたいというふうに思います。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） それでは、市税の減少の部分ですが、市民課長は新しく産業を興すことによってふえていくのではないかと、あるいは定住人口をふやしていけばいいのではないかとということのようなご意見がありましたけれども、このことについてはほかの分野でも多々言われておるところなのですが、逆に定住人口をふやそうと言っても、なかなかこの佐渡島に来ていただけないというのが実情ではないかと思うのです。2007年問題で団塊の世代を佐渡へ帰ってきていただくというふうにしても、もうすぐそこにもかかわらず何も準備がされていない、そういった部分は私はきのうの質問にもありましたけれども、そこには触れませんが、逆に島内の市民の方々がやっぱり税金をいただいでいかなければならないのではないかなというふうに感じております。というのは、どう転んでもここには今のお住まいの方しかいないわけです。最終的に責任持っていただけるのは、今お住まいの方々ですから、そういった意味でやはり私ずっと言っていますけれども、連檐ということですからずっと言ってきましたけれども、住居を連なることによって地価が上がる、あるいは今まで農地あるいは山林だったところを宅地化することによって地価が上がり、固定資産税が上がる、そういった政策を打っていかなければならないのではないかと。そこに当然宅地になれば家が建つわけですから、また固定資産税もふえると、家の部分がふえるというふうにもなりますし、そうすると先ほどの報告書にもありましたけれども、選択と集中、選択は関係ありませんけれども、ある程度人口が集中することによってインフラの整備もコストを下げても整備することができる。そして、そこからは税収が上がる。何も市が宅地開発をしなければならぬということはないのです。市が道路あるいは下水道、水道を整備することによってそのエリアを開放してやれば、おのずと民間の業者さんが宅地開発をしてくれる、こういった手法で連檐と、地域を構成していくのが一番市税を上げるには近道かと思うのですが、市長どのようにお考えですか。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） その考え方も非常に一つの考え方だというふうに思います。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） 一つの考え方ということでありましたけれども、ではほかの考え方というのはお示しいただきませんか、この税対策という部分で。先ほど市民課長から言われたのは、今の情勢から考えて非常に難しいわけです。そういったことを考えれば、今の市長のご答弁ですとほかにも私はあるのですよ

というような言い方ですので、もしそういうお考えがあるのでしたらお聞かせ願いたいのですが。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） 税金のため云々というわけではありませんで、やはり我々は地域のバランスのいい発展もお約束したことでありますから、それも一つの考え方であろうということでありまして、税金だけのことであればもっとまた別の方法も可能性もあるというふうに思います。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） ですから、それをお尋ねしているのですけれども。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） 今ご答弁したのは、議員は税金を上げるためからおっしゃられたので、それも一つの方法だろうと、次が何かあるかというのではなくて、私が申し上げたのは今までの合併のときに至るまでのお話を申し上げたわけです。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） 合併の経緯というのは均衡ある発展ということですか。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） 議論が錯綜するのですが、市税を上げるためであれば、例えば企業誘致があるとかそういうこともあるという意味で、今回申し上げたのはそういうことはあるにしても、バランスのいい佐渡全体の考え方も必要だというふうにも考えておるということです。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） 市税を上げるために企業誘致もあるというご答弁でしたけれども、その件に関しては市長自らが以前否定なさっていたではないですか。企業主に相談したら、だれかの一般質問のご答弁の中であったように私は思っておるのですけれども、かなり否定的なご答弁だったように思います。それを今度は違う質問だからそのようなという部分では、ちょっと納得いかないのですけれども。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） いろんな手法が別にあるということをはっきりと申しているだけでありまして、それが否定的かどうか、そのとき、そのときで可能性があるかどうかありましよう。例えば学校をつくるとか企業をつくるとか、あるいは人口をふやすための別の方法をとるとか、市税だけのことを考えればいろいろあって、その中の一つは、それは重要な考え方です。しかし、それについては一定のバランスも当初は必要だろうということで申し上げているわけです。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） 逆に学校をつくるにしても企業をするにしても、私は佐渡のある1カ所に佐渡の人口全部集めようと言っているわけではないのです。その地域、地域でそういった連檐という部分を、国でいう連檐60%という部分な考え方ではなくて、やはり住居地域は住居地域で固めた方がいいのではないかと、そうすれば新たに地価は上がっていくのだと、そういう考え方なのです。何も金井あたりにどんと佐渡の全員が住むような住宅地をつくれと言っているわけではないので、その辺誤解されると困るのですけれども、企業誘致等が実現するならばそれも進めればいいことですし、やはり現実的には今、先ほど市民課長が言ったように建物の資産も減価償却して評価額も下がって土地も下がっていつている、その中で今

の税収をある程度確保していくためにはそういう施策も必要なのではないか、むしろ逆にもうちょっと早い時期に合併景気を起こせばもっと違った形になっていたのではないかなというふうにも感じるのですけれども、それがなかっただけに残念な気がしているのですけれども、今からでも遅くはないと思うのです。ただこれをやって芽が出るのは5年後、10年後です。今種をまかなければ、先ほどから申し上げていますように調整期間に入ってから税収はどう確保するのかという問題が一番不安になってくるのです。そういった長期的なことを見通して、やっぱりそういう手だてをしていく必要ではないかと思うのですけれども、いかがお考えですか。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） 質問のとおりお答えただけでございまして、それも非常に大事な考え方だろうというのは変わりありません。いろんな考え方がある。どうですかと言われたので、それも一つの考え方ですと申し上げただけで、それがいいとか悪いとか言っているわけではありません。お問い合わせのとおりお答えただけです。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） それでは、今の部分についていい考えだというのであれば実行しますか。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） 諸般の事情を勘案しながらやらせていただきますし、当然いろんな委員会や、これからアドバイスをしていただけるような仕組みができますので、それを考えながらやらないと今のところは合併当初の場合は非常に難しいだろうというふうに思います。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） ちょっと議論がかみ合わないようですので、次にいきます。

機構改革についてであります。機構改革、今回の提案されている理由については多くの議員からも質問出ておりまして、きのうまでのご答弁では市民のニーズにこたえられるようにするためということであったのですけれども、この改革を部長制をしくことによって市民にはどのような利便性が出てくるのですか。直接市民に影響する部分、どのようによくなるのか、その辺聞かせていただきたいのです。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） やはり一つには、この目的は業務のスピードを上げたいというふうに考えております。通常頭でっかちになるのではないかと、時間がかかるのではないかと言われますけれども、今内部を見まして、どうしても仕事が滞ったりするところ自体の届けさせ方も含めてきっちりとして、以前も申し上げましたように、組織横断的なその判断をきっちりして、それを決裁の滞り、非常にトップのところへ詰まり過ぎている、あるいは助役のところへ詰まり過ぎている、そういうものをできるだけ早目に決裁をしていく、それから組織横断的にプロジェクトをきっちりまとめ上げると、それからもう一つは支所、本庁間の風通しをよくすると、そういう目を配らせるということに期待しております。問題は、それを運用する人間の問題もあるのですが、今まで10カ市町村から出てきた人たちがそのまま今いるわけなので、ご指摘ありましたように、教育の問題等いろいろ相またなければいけませんけれども、ぜひ本来持っている能力を十分発揮していただけるような組織にしたいというふうに思っております。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

- 38番（金光英晴君） 決裁が滞っているのは助役、市長のところでないのですか。
- 議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。
- 市長（高野宏一郎君） できるだけそのところも、そのつっかえをなくするように期待しています。
- 議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。
- 38番（金光英晴君） やはりそうでしたか。そうすると、先ほど私が何度も申し上げましたけれども、本当に市長は助役2人制にした意味というものを理解しておられますか。
- 議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。
- 市長（高野宏一郎君） 当然市長や助役が判断しなければいかぬ決裁も今上がってきているわけです。そういうものはできるだけ部長のところでは通常のデイリーワークの決裁ぐらいは十分処理するということが大事故だと、そうすれば本来あるべき姿になりやすいのではないかと。ただし、やはり我々はこの組織がこれから小さくなっていく可能性が十分あるわけですから、それに合わせて柔軟に今後の組織の対応を考えていくということをご了解いただきたい。
- 議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。
- 38番（金光英晴君） 助役2人制については答えていないのです。
- 議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。
- 市長（高野宏一郎君） 今言ったのは助役2人制の問題ではありませんで、仕事のつっかえをお話し申し上げたところであります。
- 議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。
- 38番（金光英晴君） 私は、助役2人制の意味はわかるかと聞いています。
- 議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。
- 市長（高野宏一郎君） 助役2人制の意味合いを意味がわかるかという、そういうふうな定義があるというふう聞いたことがありませんので、それをもう一度もしてきたらお願いします。
- 議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。
- 38番（金光英晴君） では、親松助役、あなたは議会で承認されたときのごあいさつの中で、私は鬼になると、佐渡市のために鬼になるというごあいさつをいただきましたが、本当に鬼になっておりますか。それから、この4月に入ってからだと思うのですが、私が助役のところにお訪ねしてお願いした、2点ほどお願いしたかと思うのですが、覚えておいででしょうか。
- 議長（浜口鶴蔵君） 親松助役。
- 助役（親松東一君） お答えします。

就任のときに、確かに私も鬼になると言うたか悪役になると言ったか、ちょっとその辺の正しい表現は定かではありませんが、私が市長の代役あるいは助役として改革とかいろんなことには波風が立つであろうから、そのときには私の責任で何とかしたいというような意味のことは申し上げました。

それから、4月就任直後おいでになったということの二つの話をされたということですが、そういう意味ではそのころまだ助役になったばかりで気持ちの整理がつかないというようなことありまして、失念をしてしまいました。どういうことあったかということ、改めてまたお伺いしたいと思います。どうぞよろしくをお願いします。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） お願いした件は2点ほどありまして、1点は市長の出張が多いと、そのために職員と市長のコミュニケーションがとれていなくて仕事が非常に滞ると、そういったことを感じておるので、助役ぜひとも市長がどんと庁舎内において陣頭指揮がとれるよう、そして細かいところまで目が届くように配慮してやってほしい。もう一点は、例の指定管理者の問題でありました。全部指定管理に出すのでなくて、公の施設として残さなければならないもの、民に移管してもいいもの、そういった整理をしていただきたいというようなお願いをしたつもりであります。思い出しましたか。

○議長（浜口鶴蔵君） 親松助役。

○助役（親松東一君） そのような金光議員のご指導を得たような記憶が戻ってまいりました。一つの市長の公務多忙ということですが、これは私のことも踏まえてですが、当時、今もそうですが、10の市町村が合併をしまして、旧の首長と同じような集会あるいは会合等にそれぞれ支所あるいは住民の方が求められてまして、合併前は首長が来たのだけれども、合併したら市長来えせんのかや、助役は来んだかやと、そういう意向も非常に強いところから、合併当初でありますので、一概に断るのもどうかなというようなことで、当時あるいは今もそうですが、なかなかその辺の踏ん切り、その辺のことで鬼になれないというのが一つの私のじくじたるところですが、今秘書室の方でその辺の調整を十分お願いするとともに、住民の方も公務というようなこともありますので、集会等には顔を出せないというようなこともあろうかと思いますが、ご容赦お願いしたいということ。

もう一つ、指定管理につきましてはごもっともなことでありますが、どうも18年の10月というようなこともありまして、作業的には間に合わない、ただ現在2年あるいは3年後の期間限定版ですので、それに合わせて今例えば起債の残高、それから補助金の残高、それから利用形態等、今調査している最中でありまして、ある段階ではその調査がまとまるというふうになっておりますので、その辺で私の方でまた判断をさせていただくということになるかと思えます。どうぞよろしく申し上げます。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） 私は、機構改革そのものは賛成なのですが、部長制については反対の気持ちでおるのです。これは余り言っても、この案件は常任委員会にかかるわけですから、そこで審議してもらえばいいことなのですから、というのはどうしても階層が多くなれば市民と市長の間は遠のきます。そういったことが一番心配しておりますし、組織が細分化され、階層が多くなればなるほど市民がどこに行ったらいいのかわからないという部分が出てくるということで、私は反対ですし、それとそんなに仕事がスムーズにいかないというのが反対の理由なのですけれども、これによって増になる人件費について、市長は5日のご答弁で300万という数字が出たと思うのですが、これは部長だけのものなのですか、それとも12名から24名になる課長の分も含まったのお金なのですか。

○議長（浜口鶴蔵君） 齋藤総務課長。

○総務課長（齋藤英夫君） お答えをいたします。

5日の一般質問でありましたときのお答えとしては300万というふうに申し上げました。これにつきましては、部制をとることによりまして部長になった場合の人件費の増は幾らかということでありまして、300万というふうに申し上げました。このことにつきましては、今現在課長職が約100名余りおるわけであ

りますが、その中での対応ということですので、全体的な範囲としても人件費としては300万の中でおさまらうというふうに考えております。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） ちょっと、でも課長にならないければ管理職手当は出ないのですよね。そうすると課長のポストがふえる分だけ人件費が伸びるのではないですか。

○議長（浜口鶴蔵君） 齋藤総務課長。

○総務課長（齋藤英夫君） お答えします。

今現在でも本庁、支所を含めて課長職に相当するという人数が100名余りおるわけでありまして、その範囲の中で今組織の改正を考えておまして、部長、課長、そして支所の課長もその中におさまると、その範囲の中におさまるという考え方の中でありまして、人件費の増額は無いというふうに考えております。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） そうすると、では職務分担表、これ条例のところから引き出してきたのですが、部長職になる人はこのところのどこの人が部長職になるのですか。

○議長（浜口鶴蔵君） 齋藤総務課長。

○総務課長（齋藤英夫君） お答えいたします。

今回部制の行政組織条例出ささせていただいておるわけでありまして、部長になるという位置づけというのは現在の行政職の給料表の中の位置づけということでありまして、8級制の中での位置づけでありますので、その中で対応していくというふうに考えております。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） そうすると7級の人も部長になるという可能性も出てくるわけですね。

○議長（浜口鶴蔵君） 齋藤総務課長。

○総務課長（齋藤英夫君） お答えいたします。

先ほど済みません、ちょっと質問の趣旨がよくとめておりませんで済みませんでした。今現在8級制をとっております。部制にしたとしても8級制の方で進んでいきたいというふうに考えております。部長になる職員が7級の中から上がってくるのか8級の方から上がってくるのか、このことにつきましては人事の関係でありますので、今ここではちょっと即答はできません。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） そうすると部長になれば8級になるということですよ。7級のまま部長にはなりませんよね。

○議長（浜口鶴蔵君） 齋藤総務課長。

○総務課長（齋藤英夫君） お答えいたします。

当然職務職階があるわけでありまして、8級に属する職務として部長になるということは前提になるかというふうに考えております。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） それと、あと支所の課長の問題なのですが、あの機構図からいきますと支所の課長

は本庁の補佐と同じ色塗ってありましたよね。そうすると本庁の課長補佐は管理職手当がつきませんよね。支所の課長は同格なのに管理職手当がつくという、市民が見ているとちょっとおかしいなという気もするのですが、その辺はどうなっています。

○議長（浜口鶴蔵君） 齋藤総務課長。

○総務課長（齋藤英夫君） お答えいたします。

ご指摘の点は、確かにそのとおりだというふうに思いますが、そのことにつきまして今中で検討させてもらっております。管理職手当をつけて、そしてその業務に当たってもらった方がいいのかどうか、そしてもう一つは、本庁の中でのレベルといいますか、本庁の中では補佐クラスと支所の課長は同格だよと言いつつ、今のようなバランスを欠くような場合も出てくるわけでありますので、そのことについて今内部で検討させてもらっております。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） やっぱりこういう部分がこれ職員同士が見ていてやる気をなくす要因になろうかと思うのです。これは、まだ検討していただけるということですので、当然常任委員会の審議には出てくるのでしょうか。それだけ確認しておきます。

○議長（浜口鶴蔵君） 齋藤総務課長。

○総務課長（齋藤英夫君） お答えいたします。

方向性については、できるだけお示しをしていきたいというふうに考えております。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） お金の話が出たついでに、俸給表が来年4月から人事院の勧告によって改正されますよね。そうしますと今8級制で佐渡市はやっておるわけですけども、来年4月1日から6級制になっていきますよね。8級制でいきますというのと新8級なのかなという感じはするのですが、制度移行後はもし部長制とる、とらないは別問題にして佐渡市は新年度からは6級制でいくというふうに間違いはないですか。

○議長（浜口鶴蔵君） 齋藤総務課長。

○総務課長（齋藤英夫君） お答えいたします。

議員ご指摘のとおり人事院勧告がありまして、平成18年度からは俸給表を大幅に改正したいということでありました。佐渡市の場合、現行では8級制ということですが、そのことをそっくりそのまま人事院勧告の方に置きかえてまいりますと6級制になるということでありますので、そのことにつきましては人事院勧告の勧告を尊重いたしまして、そういう方向で持っていきたいというふうに思っております。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） 市長、またちょっと話戻るのですが、現体制の風通しの悪さを一番象徴していることをちょっと耳にしたのですが、保育士さんのお話だったのですが、今佐和田は延長保育夜7時までやっています。それで、ほかのところも6時までなのですけども、来年度から佐和田に合わせて7時までということに市長のトップダウンでそういうふうにいせと言ったと、指示が出たと、ところがある保育園では市民だよりで初めて、私のところ来年から延長やるんだってねというようなお話があった保育園がございます。それは、職員も市民ですから、情報は市民だよりで見ればいいのだよというようなやり方では本

当に職員が仕事やる気が出ますか。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） 私も聞きました。余りいいことではないというふうに思いまして、そのいきさつはちょっと課長の方から説明させます。

○議長（浜口鶴蔵君） 熊谷社会福祉課長。

○社会福祉課長（熊谷英男君） お答えいたします。

今の件につきましては、議員ご指摘のとおりであります。正直申し上げまして、私の勇み足といいたいでしょうか、私どもの方で勝手に先に進んでしまったということでもあります。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） こういう部分が多々積み重なって市民の不満をかこっているというのが現在の組織なのですけれども、これにまた屋上屋を架したら、なおさら市民は遠くなるのではないですか、市長いかがお考えですか。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） そういうことをなくするために、この仕組みの提案を申し上げたのです。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） どうも市長、筋が違う方向に行っているのではないですか。どうしても組織が大きくなればなるほど風通しが悪くなっていく、小さければ小さいほどいいのです。市民と市長が直接話せばすぐ仕事ができるわけなのですけれども、そういうわけにもいきませんが、やはり組織がスリムに、簡素に、これがやっぱり市民のサービスの向上につながるのです。何もお金をかけて組織を肥大化する必要はないです。そして、市民に迷惑かける必要はないのです。もう少し議論していただきたいと思うのですけれども、いかがお考えですか。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） 組織というのはバランスが必要なわけですから。今いみじくもおっしゃられたように、市長1人で、それではいいということになるわけですから。そういうふうにはいかないわけですから。やっぱりこれだけの人間がいて、その人たちが一番働きやすい、あるいは情報の流れもやりやすいというバランスが必要になってくるわけですから。ですから、申し上げたように、もしこれでどうしても、私はそのつもりで今度の提案をするわけですが、もしそれがだめであればできるだけ早くどこが問題があるかということを中心分析し、かつまた変更するにやぶさかではないというふうに申し上げておるので、また議会の方もぜひそういう意味で今までどおりに厳しくチェックの方をお願いしたいというふうに思います。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） 一回組織つくってしまうと、なかなかこれはスクラップ化はできないのです。それを考えると、どうしてもつくる前にもっと議論が必要なのではないかというふうに感じます。

それから、仕事を効率よくするためには、やはり各階層における仕事の判断、決裁してもいい事項をきちんと決めることがスムーズな仕事ができるにもかかわらず、それをやられていないのではないかと、だから何でもかんでも上へ上がっていくのではないかと、一つ上、一つ上というふうには上がっていくのではないかなというふうに思われるのです。ファーストフードのチェーン店なんかでは、おじぎの仕方、あい

さつの仕方までマニュアル化されています。あそこまでやれとは言いませんけれども、そういった業務に対してのマニュアルをきちんとすれば組織なんかは肥大化しなくても市民のための仕事ができると思うのです。これをもう一度検討し直してもらえませんか。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） それも一つ大事なことだと思います。それぞれをバランスよく考えて最適な組織組み立てをしていきたいというふうに思っております。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） あとそれと、支所のあり方なのですけれども、今地域の人たちが心配しておられる、不安に思われているのは支所から人がいなくなるということを非常に心配しておるわけなのですけれども、それはやはり今回の質問にもありましたけれども、災害時のときに対する対応、人がいなくなると対応してもらえないのではないかと不安があるかと思うのです。それをやはりもしもの災害のときにはきちんと出身の職員がその支所に張りつくとか、そういった部分をきちんと示してあげれば市民は不安がありません。そして、人数は少なくともスリム化した行政で仕事がスムーズにいけば、むしろ市民は安心します。そういったことをあわせて検討願いたいのですが、いかがですか。

○議長（浜口鶴蔵君） 齋藤総務課長。

○総務課長（齋藤英夫君） お答えいたします。

議員ご指摘のとおりでございます。特に災害等につきましては、第1次に出動できるという、また地域の実情を知っているというのは支所の職員でありますので、十分そのあたりについては今支所の方と協議を重ねておるところであります。先般も真野支所管内で起きたという災害等教訓にしながら、そのあたり進めてまいりたいというふうに思います。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） 最後に、指定管理者について一言だけ、前回の反省について、多々反省すべき点があったというご答弁いただきましたけれども、10月19日の市長のメールマガジン第10号があるのですけれども、「今回の議会は、以前に説明しました指定管理者制度の導入で54施設で指定管理者が決定しましたが、それをめぐって最初のルールが皆さんに理解していただけなく異論百出でした。終わって議員の方々も疲れ果てた9月議会だったと述懐されていたようです」というメールマガジンなのですが、これを読んだ市民の方々がどうも議会の議員が言っていることと市長の書いていること違うのではないかと、市長のメールマガジンでは議員が最初のルールを理解していなくてあんなにごたごたになったのではないかと書いてある。市長は、どういうつもりかわかりません。読んだ人は、そういうふうにして問い合わせがありました。本当にそうだったのですか。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） できるだけ誤解がないように、これからは書いていきたいと思っております。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） では、どういう意味で書かれたのですか。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） 今ちょっと手元にありませんけれども、それは私はこれをどうかとか、どっちだ

とかいうのでなくて、先ほど申し上げたようにいろいろ出した方も本当に反省すべきところがたくさんあるというふうに思っています。正直この次からは全体のバランスを考えながらやらせていただきたいと思っておりますので、これはお返しします。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） これは、逆に私知らなかったのです。市民の方々の連絡で読んで大変びっくりしたので、何か非常に反対した人が悪いみたいな書き方なのです。そういう市民の問い合わせだったのです。ここできちんとそういうことを市長から否定していただかないと誤解を招きますので、時間も参りましたので、これで私の一般質問を終わります。どうもありがとうございました。

○議長（浜口鶴蔵君） 以上で金光英晴君の一般質問は終わりました。

ここで休憩いたします。

午前 11時28分 休憩

午後 1時14分 再開

○議長（浜口鶴蔵君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、田中中文夫君の一般質問を許します。

田中中文夫君。

〔28番 田中中文夫君登壇〕

○28番（田中中文夫君） 三・一クラブの田中中文です。よろしくお願ひします。きょうは上天気でございます。からっと晴れ渡った天気をバックに少し、ここ前半は皆様暗いお話ばかりでしたので、少し明るくと思いますが、そのためにはやっぱり問題を暗く混迷にさせているのは知性と意思がない証拠だというように思います。ですから、知性と意思を発揮していただいて、すきっとした上天気に映えるような回答を期待したいと思っております。

さて、私は9月定例議会において、行政改革を推進するためにはPDCAサイクルの不断の運用が大切だと申し上げました。今さら注釈するまでもないことですが、総務省が示した三位一体改革の方法論であります。本市もそれを採用して、行政改革大綱にその方法論を導入するとちゃんと明記をしています。その意味で、12月はこのPDCAサイクルが有効に運用されているのかを診断する絶好の時期です。本年度予算が実施されて4分の3の段階に来ました。今回提案の補正予算もそうでしょうし、行政組織変更の提案についても当然のことながら、本年度具体化したばかりの室の執行状況を検証した上で、見直しという形での提案がされたというふうに理解しています。そのような意味で、現在の予算の執行状況をきちんと検証し、点検し、見直した結果として執行体制も提案されてきたというふうに思われますので、まず執行状況とその行政組織が何ゆえをもってこういう形で提案されてきたのかも含めて教えていただきたいと思ひます。その上で、当然のことながらそれを踏まえた執行体制が既にでき上がっているならば、当然来年度何をすべきかということについても骨格的な部分については当然もう想定の中に入っていることだと思ひますので、突出した形のもので結構だと思いますが、来年度予算の具体的に何をやり、何をやらないかということについて率直にお聞かせいただければ、私の質問の意図は貫徹すると思ひます。よろしくお願ひいたします。

一応具体的にはこのような筋書きで書いてございますが、1、本年度主要施策の実施状況について、大綱9項目の進捗状況はいかんと、点検をした結果としてD、C、Aということになります、サイクル的にいいますと。を踏まえてどのような見直しがされたのかということについてお聞かせください。と同時に、そういう見直しを得て提案された機構改革について、どのような問題があってこのような形でやっていこうとしたのか、この組織機構を具体的に運用することによって何が改革されるのかということについても教えていただきたい。

当然のことですが、これは市長はあえてこのことについては言及されないだろうと思いますので、あらかじめ私申し上げておきますが、市長の任期もあと2年という段階に来ます。当然のことながら、組織というのはある種不動になっていなければならない部分もありますが、かなりこの組織図を見ますと市長の政策意図を貫徹するために用意された組織形態であるような気がします。としますと、市長の任期が次も予定されているかどうかというのはわかりませんが、少なくともご自身の任期内に具体的にやりたいこと、やらなければならないことをやっ飛ばさうという組織というふうには私は理解します。といった意味で、皆様はここ2日半日かけていろいろとご批判をしておりましたが、この組織そのものは私の理解では暫定的なものだと思います。あくまでも10年というスパンの中で続く、永劫の数字ではない、当然10年の合併協の中での予定の中にも支所の統廃合を含めたピラミッド型の行政組織をとすることは課題になっておりました。その課題を前倒ししてでも変えなければならないということも含めて、支所の統廃合と、ある意味ではこの組織が変わる時期というのはイコールになるかもしれない、とすると早ければ2年後です。2年後にこの組織と支所の統廃合は一緒に変わっていくというふうには私は理解しています。そのような意味で、暫定的であるならば暫定的なりに、その暫定期間有効に運用し、発揮していただかなければこの組織は意味がないというふうに思いますので、そういった点も含めて言及をしていただければ助かります。

第3点については、来年度予算の先ほど申し上げた現在骨格部分はほぼ決まっていると思いますが、具体的にどのような指示をし、どのような取りまとめをしようとしているのかということについて、指示は既に出ていると思いますので、例えば補助金は1割削減だとか、そういった形の方針は形式的には出ていると思います。当然各所轄段階では取りまとめしていると思いますが、そういったことも含めて具体的な指示がどのようになされているかについてお聞かせいただきたい、と同時にこの議会の後段に新市建設計画の特別委員会では中間報告なさるそうですが、それも踏まえて新市建設計画にのっかっているものの具体的な事業を来年度何をするのか、あるいは予定されていたものについて何をしないのか、あるいは今まで既存でやっているものについて何をやって、何をやらないのかということについても、大枠についてはお答えいただける時期だと思いますので、その点についてもご回答いただければ助かります。

それでは、1回目の質問はこれで、改めて質問席で質問させていただきます。

○議長（浜口鶴蔵君） 田中文夫君の一般質問に対する答弁を許します。

高野市長。

〔市長 高野宏一郎君登壇〕

○市長（高野宏一郎君） それでは、田中文夫議員のご質問にお答えしたいというふうにあります。

最初に、大綱9項目の進捗状況についてということでございますが、大まか項目別の進捗状況、本来で

あれば何%進んだとか、金額で言えばどれだけ進んだとか、具体的な数字が必要だと思うのですが、現在のところはその感覚だけでお答えしたいというふうに思います。仕掛けたプロジェクトが交渉中であったり、まだ口約束の状況であったりするところもございます。なかなか今のところでは数値的には明示できないのが、そういう意味でチェックの部分の機能がまだ正確にはお示しできないのが残念ですが、私の感覚で申し上げたいと思います。まず、進捗状況については、基本的なことをお話しして、それぞれに各課長の方からある程度の詳細状況をご説明したいというふうに思います。

最初に、環境問題につきまして、循環型社会を目指す人がトキとともに生きる島づくりを目指して、18年度の環境基本計画策定に現在向けて進んでおります。3月には基本条例の策定をいただきまして、市としては温暖防止をやるための率先行動を推進し、最終的にはISO14001を目指すということで計画は進んでおります。現在のところは、先ほど申し上げたように環境基本計画策定のところでございます。そのほかには詳細、佐渡のクリーン作戦とかその他ございますので、これは課長の方から説明させます。

それから、トキの野生放鳥は国が策定した環境再生ビジョンとトキ保護増殖事業計画に基づき、国、県、市が一体となって大学、民間団体の協力を得ながら進めておりますし、離島特区は特区申請の項目の検討ですが、9月に人員をふやしましたけれども、見るべき進捗状況が現在はございません。トキの野生放鳥については、周辺の整備あるいは今回は農水関係ですけれども、有機栽培、それから無農薬については調整割合といたしますか、昔で言えば減反ですが、その割合をふやすような調整で進ませていただいております。

空港問題については、事あるごとにご説明しましたが、地権者の合意形成が不可欠であります、それは一頓挫しているところでございます。それには、県の姿勢が一つありまして、これは検討委員会が現在動いておりまして、1月中旬には一応結果が出るという形でございます。

ユネスコ世界遺産につきましては、県に積極的に働きかけまして、知事もそれらに対する行動を既に行っていただいております。一つ一つ自分たちの前にある候補者を追い抜く作業をするということで進んでいるところでございます。

観光振興については、残念ながらことしは68万前後ではないかと、まだ締め切っておりませんが、そういう数字でございます。去年は65万9,000人だったと思いますので、少しはいいのですが、去年は地震災害があったことを考えるとほぼ去年の横並びか、やや上向きかけてきたかなと、感触はそんなところでございます。これが当初で73万人を目標としておりましたのですが、残念ながらいきません。非常に残念な結果となっております。

それから、佐渡の伝統文化研究機関設立に向けた、今準備室が動き始めております。専門家といたしますか、各地域に分散していました学芸員を1カ所に集め、まず登録文化財、登録記念物候補物件の調査、県指定文化財に向けての文化財調査、民俗技術調査、有形の民俗文化財の保存収集調査等を行っておりますが、膨大な資料の未整備の分もございますので、これはかなり先の長い話になるのかなというふうに思いますし、後で先ほどの例のユネスコの世界遺産と恐らく連動するような調査になるのではないかと、同じもう既に予備リストに入っている石見銀山、同じ鉱山だけでは世界遺産登録は無理だということもありますので、周辺文化財も一緒にして、有形、無形文化財も一緒にして申請をしなければいかぬというふうに考えておりまして、将来はこれが恐らく一緒になって世界遺産に向けて動き出す機関になるというふうに

思っています。

保健、医療、福祉の向上については、保健部門では現在健康佐渡21計画策定に取り組んでいる状況でありますし、医療の医師確保対策として既に県と共同で医師養成就学資金貸与事業に踏み出しております。また、福祉分野では少子化の流れを変え、子育てがしやすい環境整備に向けて計画策定や事業を実施しております。ほぼ福祉関係では、次のステップの特別養護老人ホーム、それからその他民間でやっていただくような準備で歩み始めておりますし、また別に民間の企業ですが、新たな参入に向けて誘致を進めているところでございます。

教育につきましては、小中学校の学力水準確認を実施するとともに、個々の児童生徒に対するきめ細やかな指導を目指し、学習指導の改善に取り組んでおります。同時に以前にもお話ししました上位学校の進出決定に向けて、かなりステップが確かなものになりつつあるというふう感じております。

島民参加と女性の参加を促す施策につきましては、市民参加推進室へ男女共同参画検討委員会を立ち上げ、取り組みを進めておるところでございます。念願でありました行政選出の各種委員の数を3割というのはお約束ができたのですが、結果として見ると23%弱というところで落ちついておるわけで、原因は以前もちょっとお話ししましたが、公募委員にどうしても女性が少ない、あるいは技術……専門知識を持たれている委員につきましてはどうしても女性が少なかったということございまして、さらに行政の選出委員につきましてはパーセンテージを上げるというつもりで来年は進んでいきたいというふうに思います。

これら九つを説明しましたが、詳細は課長の方から説明させていきたいというふうに思います。

それから……

○28番（田中文夫君） 具体的に新設した室の働きぐあいと評価も含めて言っていたかかった……

○市長（高野宏一郎君） わかりました。それでは、これ本来私が言うべきことなのですが、次の、申しわけありませんが、担当課長の方で説明させていただきたいと思います。

機構改革について、組織改編の理由と新機構の具体的な動きについて、それから支所統廃合とそれに連動した組織改編の予定時期について、議員からもおっしゃられましたけれども、組織改編につきましてはスピーディーな事業の推進、縦割りではなくて横へのプロジェクトリーダーとしての役割ということでもございます。それから、ことしはそういう意味でかなり具体的に4年目の折り返しのところへ参ります。いろいろご批判もありました。市長が余りいないとか、あるいは下から上がる情報が遅過ぎるとか、そういうことが一番大事なことでありますけれども、今九つ申し上げたのばかりではございませんで、非常にそういうものについての最後の確定をして仕組んで終わらなければいけないということもございまして、今まで動いてきた、あるいは動こうとしていることのため押しをきっちりやらせていただきたいというふうに思います。

それから、支所統廃合とそれに連動した組織改編の予定時期について、これはまだ何とも言えませんが、実は合併のときには七、八年後に支所は統廃合するということございまして。当初合併協議の中ではブロック化の話も出まして、それが問題化したということもあったわけなのですけれども、そんなのんびりはしてられないというのが現在の皆さん方がおっしゃられるまでもなく、我々はその認識でございます。本庁をどういうふうにつくるかどうかということもありますけれども、それよりもやはりスリムで、かつ

また職員の意識が一つになって、それで地域を見直すという仕組みが非常に大事だというふうに考えておりますので、その過程の一つとしてお考えいただきたい。支所統廃合の時期については、ちょっとこれはご勘弁いただきたいというふうに思います。

それから、予算についてかなり具体的なことを求められております。この厳しい財政の中で、効率的で効果的な行財政運営に取り組むために、経常的な経費については一般財源ベースで枠配当方式を採用して、その他の経費についても削減割合を設定し、費用対効果の観点から積極的に経費の見直しを行うことにしております。限られた財源の中でスクラップ・アンド・ビルド方式をこれまで以上に徹底して新たな行政課題に的確に対応していくため、現在審議中の行政改革推進委員会の意見を十分取り入れながら予算編成を行うつもりであります。

詳細については、今の編成方針について課長の方から説明させますが、現在課長に施政方針も踏まえてある程度具体的な案をヒアリングをしましてやりとりをしております。それがやっとながって来たところでございますが、その中で取捨選択し、施政方針に合う形で皆さん方にご提示する、あるいは規模が小さいものは大きくし、あるいは今言ったように中途半端なものはスクラップ・アンド・ビルドの執行の中で組み立てていくということにしたいと思っております。それと、具体的な事業についてもその中でやろうとしておりますので、議員ご存じのように非常に厳しい情勢の中で、まず現状では民間や、あるいは県の施設、あるいは既に決まっておる一部のものを中心にして考えて、あと先ほど申し上げたような一定のバランスの中で再配置をし、ご提案を申し上げたいというふうに思っておりますのでございます。

○議長（浜口鶴蔵君） 各課補足説明を許します。

大川環境保健課長。

○環境保健課長（大川剛史君） お答えいたします。

環境保健課関係の本年度の主要施策の実施状況につきまして、市長答弁を補足してお答えいたします。また、あわせてまして新設室の状況についてお答えしたいと思います。

環境保健課では、環境保全室を本年度設置いたしました。その大きな事業といたしましては、環境基本計画の策定に向けた取り組みを進めているところでございます。具体的に申し上げますと、環境審議会を設置いたしまして、環境基本計画の策定についてこれを諮問するとともに、市民環境ワークショップですとか市民環境アンケート調査、事業者懇談会の開催などによりまして、市民や事業者の参画を得ながら現在その環境基本計画の素案の検討に取り組んでいるところでございます。

次に、不法投棄対策でございますけれども、島内では不法投棄が目立つという状況から、これを根絶することを目的といたしまして、きのうの市長の答弁にもございましたとおり9月から不法投棄監視員を選任いたしました。そして、監視区域内の監視でありますとか、美化活動の推進を図っております。また、今年度は放置自動車につきましても鋭意取り組んでございまして、所有者の調査をし、判明したものは警察の協力を得ながら撤去を促すとともに、不明のものについては市として撤去をするというような事業に取り組んでいるところでございます。

続きまして、トキの野生放鳥に向けた取り組みでございますが、環境保健課ではトキ推進室をこの4月から設けさせていただきました。来年度は、トキ野生復帰に向けましたトキの野生順化施設が新穂の正明寺地区に完成する予定でございまして、この施設の周辺では農家の協力を得ながら農林水産課の事業と協

力して環境保全型の稲作に取り組んでいただいているところでございまして、来年度以降これらを拡大していく予定としておるところでございまして。このほかにイベントですとか各種媒体を利用いたしました情報発信、市民による生息環境の保全活動、ボランティアの団体支援、こういうようなものを通しまして積極的に取り組んでおきまして、地域住民の理解を得ながらトキの野生復帰に向けた取り組みを進めていきたいというふうに考えております。

次に、保健、医療、福祉の向上に関しましての環境保健課の関係のところでございますが、長期的な展望を持った健康的なまちづくりを目指します健康佐渡21計画、これにつきましては市民の一人一人が主体的に健康づくりに取り組んでいただくということが必要であるため、計画の策定段階から市民の参加を得て、より多くの市民の声を反映させた計画として策定するというところで、現在鋭意その策定に取り組んでいるところでございます。

また、子育てを応援するため乳幼児医療費の助成制度でございまして、これは市の単独事業として17年度からそれまで3歳から4歳、入院につきましては4歳から5歳までという枠があったわけでございますが、これを就学前の幼児まで対象とし、拡大をしたところでございます。そして、医療費の自己負担の軽減を図っているところでございます。

以上、環境保健課関係の主要施策の実施状況でございまして、今後ともその推進に向けて努めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

次に、中川企画情報課長。

○企画情報課長（中川義弘君） 施策方針の中の2番目に特区離島ということが出てきます。特区につきましては、先般から話をしていますどぶろく特区というのが出ておるわけですが、これにつきましては18年度に実施ということまで今話が進んでおります。

それから、いま一つの佐渡ナンバーというのが出ておりましたが、これは大変我々の方でもどうかということで、まずは職員全体に対しての意識調査をしております。大変私たちはこの結果を見て驚いておりますが、若い方につきましては佐渡ナンバーというのは嫌がられるのではないかなという懸念でやったのですが、反対に年配者よりは若いの方が佐渡ナンバーをつけるべきだというような意見が出ております。この辺を踏まえて、佐渡ナンバーとしてやっていけるのかどうかやっていきたいというつもりでございます。

そのほかの特区としましては、庁舎内に横断的に特区の対策する係がおるわけですが、その方々と一緒に来年度から、18年度からなのですが、どういったものが佐渡市としてできるのかということをお取り組んでおる中身でございまして。離島につきましては、ことしは東京の汐留というところで全国で初めて15年、16年で合併をしました市町村が集まりまして展示会をしております。そういったものとか、先般はまた池袋で離島だけの展示会等々しております。また、同じときに佐渡市と一緒に合併をしました対馬、それから壱岐との二つの離島があるわけですが、そことの交流ということで離島野球大会というのを開いております。これは、来年は壱岐の方に行くというつもりでおるのですが、将来的には離島甲子園というような大きな大会にできればなというようなことで、そういった名目で今3島で検討している最中でございます。

その次に、4番目に空港があるのですが、空港につきましては本当に申しわけないのですが、同意率につきましては進展をしておりません。99人の方のうちから90名の方につきましては同意をいただいておりますし、9人の方についてはまだ未同意ということになっております。これは、先ほど市長が説明したとおりでございます。

それから、9番目に男女共同参画という室をつくっていただいたのですが、これは市民参加推進室ということで男女共同参画について計画しておるのですが、これは10名の推進検討委員を立ち上げてまして今会議をしております。この中で大きなのは、ことしはアンケートをやりました。これは、アンケート結果が出ておるわけですが、庁舎内にも男女共同参画庁舎委員会というのがありまして、そこで許可をいただきましたので、12月にはこのアンケート結果を公表したいというつもりでやっております。

以上です。

○議長（浜口鶴蔵君） 市川観光商工課長。

○観光商工課長（市川 求君） 観光客の入り込みについては、先ほど市長が話されたとおりであります。観光振興について、がんばろう新潟佐渡キャンペーンの誘客宣伝を行いました。また、両津の佐渡汽船にありますけれども、ツアーデスクの設置等、友好都市への協力依頼とか、5月に東京事務所が開かれましたので、そこで観光PRを行っていただいております。

新設された観光資源開発室ですが、新しい観光コースのつくりや観光マニュアル等のパンフレットの作成、また観光看板の整備などに着手しております。

○議長（浜口鶴蔵君） 木村医療課長。

○医療課長（木村和彦君） お答えいたします。

医療分野につきましてお答えをいたします。医療課には現在医療推進室で職員2名を配置しております。職務の内容としましては、医師確保に関する事、地域医療計画に関する事でございます。精力的に作業を進めております。

大綱の7番目に、保健、福祉、医療の向上についてという項目がございます。その中で、先ほど市長が答弁しましたように医師確保としまして17年度から4年間、平成20年度までの間に県と共同いたしまして対策を講じるということで、参加市町村は12市町村ございます。その中で既に17年度の支援の学生は3名で決定しております。ちなみに、佐渡市、十日町市、糸魚川市の3市であります。そういうことで、長期的な医師確保について精力的に県と共同しながら参加をしております。予定目標は3名で、あとの2名については一応19年度に予定をしているところであります。

以上です。よろしく申し上げます。

○議長（浜口鶴蔵君） 教育関係について、学校教育課長。

○教育委員会学校教育課長（鹿野一雄君） それでは、教育委員会関係の学校教育課関係でご回答申し上げます。

教育の学力向上の面では、全国標準診断学力検査をやっておりまして、小学校では全国標準レベルを上回っておりますし、中学校でもほぼ全国標準と同レベルということでございます。今後もこういうことを上げていくように取り組んでいきたいと、このように思っております。

それから、教育の総合学習の関係でございますが、現在各学校で創意工夫を生かして取り組んでもらっ

ておりまして、今年度は2カ年継続でありますけれども、小学校3校、中学校2校を研究指定校にして環境教育、伝統文化伝承の活動の取り組みを行っております。この研究校の1年間の取り組みの成果を来年2月14日にアミューズメントでやる予定でありますので、たくさんの方からおいでいただきたいと思っております。

それから、教育の施設整備の関係でございますが、16年度から継続で実施していただいた深浦小学校の体育館と小木こどもセンター内に幼稚園の施設がことし完成しておりますし、同じ継続事業で赤泊の小学校の体育館が完成しております。また、繰り越し事業で進めてまいりました高千中学校の体育館の大規模改修改造工事が11月に完成しておりますし、同じく赤泊小学校のグラウンド改修工事も現在進められておるところであります。それから、本年度に入りましてから二宮小学校の校舎の増築工事をやらせてもらっておりますし、7月からは新穂小学校の校舎の改築工事も同時並行で進めさせてもらっております。

それから、これからの学校の適正配置ということでございますけれども、既にご案内のとおり学校教育環境等整備検討委員会の答申がなされましたので、これを受けて教育委員会で十分協議を重ねて早い時期に方向性を出させていただきたいと、このように考えております。

以上です。

○議長（浜口鶴蔵君） 坂本生涯学習課長。

○教育委員会生涯学習課長（坂本孝明君） それでは、生涯学習課関係のことについて説明させていただきます。

まず、4番目のユネスコ世界遺産指定に向けた取り組みについてであります。ユネスコ世界遺産登録の施策課題につきましては、佐渡金銀山室におきまして調査を進めるとともに、各学会を代表する研究者の方々を委員とする佐渡金銀山遺跡調査委員会の指導のもとに、国及び県とともに連携を密にしながら、今後10年間における具体的な調整計画の立案を作成し、また全市民を対象とした世界文化遺産に関する啓発、普及のための講演会等を実施しているところであります。

次に、今年度新しくできました佐渡伝統文化研究所準備室についてであります。準備室の進捗状況としましては文化財保護行政では調査研究の成果としまして、小泊の須恵器窯跡が県史跡の史跡として範囲拡大が認められました。また、登録文化財、登録記念物候補物件調査、県指定文化財に向けての文化財調査、民俗技術調査、有形の民俗文化財の保存、収集調査等を行っております。埋蔵文化財業務につきましては、各地の開発業務に係る緊急発掘調査の整理を進めておりますし、また開発側用の埋蔵文化財の取り扱いに関する説明書も作成をいたしております。また、文化財のデータベース化を進めておりまして、郷土資料4,800件、それから人物データ1,600件、歴史年表等、またホームページ作成業務も推進し、あわせて検索システムの構築を図っております。

あと教育全般についてですが、私どもの方では今年度から佐渡市生涯学習推進計画策定に向けて作業を進めております。大綱に掲げられております生涯を通じた主体的な学習活動支援、市民意識の醸成に向けた講演会開催、それから公民館ネットワーク化、学習活動の場の提供等も生涯学習推進の重要な項目として推進計画に盛り込んでいく予定であります。また、市内の図書館4館と、それから図書室6室の貸し出しシステムの電算化とオンラインネットワークの構築については18年度からの稼働を目指して準備をさせていただいております。このシステムが完成しますと利用者のプライバシーが保護されると同時に、身近

な図書室、図書館から市内全体もあわせ、それから県立図書館の資料の検索も可能となります。また、生涯スポーツの推進についても生涯学習推進計画に推進体制の整備、それから総合型スポーツクラブの育成、各種世代の体力、健康づくりのための取り組みについて策定を進めていきたいと思っております。

あと国体に向けてであります、ことし6月に第64回国民体育大会の佐渡市の準備委員会を設立させていただきました。準備委員会では今年度中に策定する基本計画に基づいて市民への広報、それから啓発、競技会場の施設改修等々進めまして、平成20年の2月の大会、平成21年の本大会を開催することに向けて進めていきたいと思っております。

以上です。

○議長（浜口鶴蔵君） 浅井財政課長。

○財政課長（浅井賀康君） お答えいたします。

来年度予算の編成の基本的な方針といたしましては、一般財源の減収が見込まれるような厳しい状況であるということ認識をしていただきまして、限られた財源を効率的あるいは重点的に配分をする必要があるということの基本として、先ほど市長の答弁にありましたが、経常経費につきましては枠配当方式によりまして事務事業を十分見直しを行って、その枠の中におさめていただきたいということをお願いしておりますし、また国あるいは県の補助金等の削減に伴う市費への振りかえについては十分慎重に、一応基本としては行わないようお願いしたいということで考えております。また、過去の実績等を踏まえて最少の経費で最大の効果を上げるように効率的あるいは効果的な運営というものを検討していただきたいということ、それから補助金等につきましては事業内容等十分精査をいたしまして、事業効果を検証して現行よりも縮減をしていただくということをお願いしております。

また、継続的事业、既存の事業等ありますが、そうしたもの、また新規事業等も事業検証を行っていただき、サンセット方式あるいはスクラップ・アンド・ビルドの方式等によってお願いしたいということ、それから可能な限り国あるいは県の事業採択の可能なものについては、そうした活用を図る等お願いしたいということ、それから起債等の発行についても一定程度の抑制を図っていききたいというようなことで考えております。それらの基本的な事項をお願いして、さらに本庁の所管課で支所からの要求等を取りまとめて調整をした上でお願いをしていくという形で進めております。現在予算の編成の段階でありまして、今ちょうど調整等を行っていることをご理解をいただきたいというふうに思います。

○議長（浜口鶴蔵君） 田中文夫君。

○28番（田中文夫君） 先ほど途中で言いたかったのは、主要施策ですから当然のことながら順調に事業をこなしていると、次年度も引き続きこの勢いに乗って展開したいというふうに言えば一番よろしいのでしようけれども、そうはいかないだろうなということを踏まえて、私はだから当然4分の3まで実施したわけですからこらあたりできちんとした検証をし、次年度はこのような見直しを行い、やっていかたいとかというようなことまで含めてご報告いただけるのかなと思ったものですから、一番私が聞いたかったのは本年度4分の3やったときのご自身の事業展開についての評価です。評価が欲しかったのです。その評価は当然のことながら厳しく見詰め直して評価をしていただきたいかったということが一つ。

今のご説明だけを聞いて、はいと言って本当は過ごしていきたいのですけれども、市長もご自身がこの報告聞いたら一つ一つやりとりしたくなるでしょう、やっぱり。この事業はどうなっているの、どの程度

人が集まったのというようなことも含めて、ではこの計画はどの時期までにどこまでに進んで、どの段階で上げてちゃんとした形で皆さんにお示しできるのかというようなことは聞いてみたくなるでしょうし、当然お聞きになっているのかもしれませんが、この場では私どもにはお話しただけないようですが、私は一応そういった意味では皆様は甘くご自身たちがやっている事業を見積もっているとは思いますが、それを議員を含めて市民に公開するだけの勇気がおありかどうかということについて、報告いただきかったわけですが、私は6割方納得をしましたけれども、この説明を聞いて、ほう、そうかと、なかなかいいことやっているねと、今後とも頼むよというふうになるのかどうか、私は改めてこれについて質問を続けるつもりはありませんけれども、ただ余りにも今財政課長がお話し申し上げたような来年度予算の編成について枠の中で何%縮減とかなんて言ったときに、では順調にいつている事業をどういうふうにするのでしょうか、どういうふうにするのでしょうか。少なくとも市長が私の政治信条を含めてこの9項目については自分の進めたい事業だということで、皆様に託して事業をさせているわけですから、それを市長の意図を含めて各事業課がどのような工夫と経費節減と効率化のもとにやっていくのかということについては、もう少し知恵を絞っていただかないと予算編成のところではまた大議論になるかなというふうに思いますが、改めてもう一步突っ込んで財政課長にお聞きしますが、来年度の予算規模はどれぐらいで考えておりますか。

○議長（浜口鶴蔵君） 浅井財政課長。

○財政課長（浅井賀康君） お答えいたします。

現在のところ予算編成の段階でありまして、基本的には今年度示しました財政の見直しの計画に沿ってできる限りいきたいと、ただ三位一体の改革によって一般財源等についても減収の見込みであるというようなことから、編成作業進めてみないとちょっとわからないものですから、今の段階ではそういうことでご勘弁いただきたいと思っております。

○議長（浜口鶴蔵君） 田中文夫君。

○28番（田中文夫君） 私は、ことしの予算編成のときの時期の一般質問で、10年間かけて30億ずつ減らしていけば本市が5万内の地方自治体になったときに200億台の予算でやっていけるのかなと、ですから17年度予算30億減ったについては、ちょうど10年後には300億減るなというふうなつもりで、同僚議員には甘いなと言われましたけれども、私はきちんと30億ずつ減らしていけばそれは大したものだと、初年度がそれならばそれでよいというのが一つ。

今ちょうど16年度決算させていただいておりますが、各旧市町村の10カ所の予算繰りをただ集めただけにしてはちゃんと歳入が入っておると、そういった意味ではどうしてかき集めただけの予算の中で歳入部分はきちんと入っているのかなと、では17年度はどうなのだろうと、旧10カ市町村の執行をまだ引きずった予算のようなつもりでございましたけれども、ひょっとするとこの30億削ったところにある種の知恵があって、歳入歳出きちんと段取りどおりやっていくのかなと思ってみたりもしました。6月、9月、11月は増額の補正でしたから、今回2億かそこらぐらいちょっと減額されていますけれども、少なくとも当初498億で見積もった予算にしては、とりあえずはそこそこいつているのかなというような気がしますけれども、そういった意味では3年目はもっと知恵を絞ってきちんとした形で縮減をしながら、なおかつ主要事業を展開していただけるのだろうなというふうに私は期待しておりますけれども、問題は執行体制の問

題についてですが、なぜ室の問題をとったのはいろんな経過もわかっておりますし、本来は室ではなくて課にしたかった、ただ議会の反対があったのでやむなく室にしたというような経緯もわかりますが、ただ改めて今回新しい組織図を提出いただいたときに、室だったものが順当に課になっているということで、今までの事業をより速やかに横断的に迅速に即応性を持って実行できる体制として課をとということでイメージしたのでしょうか、そのことの確認を市長、もう一回させていただきたいと思います。室の評価も含めて、こういう室だったけれども、やっぱり課にしなければならなかったなということでそうなったのかどうか、ちょっとお聞かせください。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） 議員がおっしゃるとおり、そういうイメージもありました。というのは、そうかといいいながら、前は議会の問題ばかりではなくて、やはり我々も専門的な知識を必要とする課が設置しなければいかぬ、しかしそれが本当に必要かどうかについてのやっぱりある程度の検証も必要だったということで、室をたくさんつくらせていただいたわけなのです。その中でももちろん減らしたのもありますし、なくしたのもありますし、課に昇格させていただいたの、あるいは統合して、あるいは分離したのもございますので、そういう意味でご理解いただきたいと思います。

○議長（浜口鶴蔵君） 田中文夫君。

○28番（田中文夫君） 課にしたかったものを室にとどめたことを改めて今回課にしたという経緯だけではないと、含めてですが、この室そのものが課として昇格するについて、助役含めて総務課が取りまとめたのでしょうか、室を抱えている各課から具体的に要求なりがあったのでしょうか。

○議長（浜口鶴蔵君） 齋藤総務課長。

○総務課長（齋藤英夫君） お答えをいたします。

今現在室になっている部署につきまして、定期的に検討会を開いております。どういう進捗状況になっているか、課題は何か、問題点はないのかということで、助役が中心になりましてそういう検討会議を開いております。そういった中から、役割としては当然課として活動していく必要があるという部署については今回四つなり五つなり、総立ては五つになりますが、五つの部署を課に昇格をして課としてもっと活動してもらいたいという思いからしたのもございます。特に行政改革の分野、環境の分野、それから通常の業務であります、工事管理の関係、それから秘書の関係、そしてもう一つ、これは肥大化した財産管理を適正に束ねていくというところから防災と合わせまして防災管財という形で、五つの室については今回課にさせてもらったということでありまして、それぞれ所管の課長あるいは室長から集まってもらいまして、そういう協議はしてきた経過があります。

以上です。

○議長（浜口鶴蔵君） 田中文夫君。

○28番（田中文夫君） 室では現在受け持っている事業が展開しがたいと、だから課にしてほしいという要求があったのですか。

○議長（浜口鶴蔵君） 齋藤総務課長。

○総務課長（齋藤英夫君） お答えをいたします。

それぞれ所管する課長との中で、この部署をどうしても課にしてくれと、そういった要求といいますが、

そういうところは具体的にはなかったわけでありますが、双方協議した中で、これは課として適正だなどというところでお互い協議をしながら課としたと、課にすべきものについては課にしたというところであります。

○議長（浜口鶴蔵君） 田中文夫君。

○28番（田中文夫君） 私は、さっとこの組織図見させていただきまして、一番そうか、これ必要があったからそうなったのかなというのは、環境推進課に改めて産業物対策課というのができたというのは、これは確かに課の中では一つの必要性があったということなのかなというのと、離島特区の室を地域再生対策室、これは先輩議員と市長がやり合っておりましたが、ちゃんと話ができて上がっていて、こういう室ができましたね。特区の室が係になったという、そういったようなことについてはあれですが、ただまさに何人も同僚議員の方々が屋上屋ということの持っている意味は十分理解の上でこうなっているのだと思うので、私はこれを暫定的にということで、ある種いたし方ないのかなというふうには思っております。というのはなぜかという、合併をしてある意味でスリムにならなければならない組織であるにもかかわらず、人員を抱え込み過ぎている、かといって人員が余剰だからといって、さあやめてしまえというわけにはいかない。かといって人が余っているから仕事を探してきてやらせるというわけにもいかない、またその仕事をさせるためのお金もないということになってくると、なかなか余った人員を使い切るのは大変だなどということになるわけですが、そういった意味でのある種の工夫、知恵が働いたかなというふうに思います。ただそのような意味で言えば、合併の後遺症ということで、暫定的にこのような形の組織を組まざるを得ないというふうに思います。それは、ただ人を入れる器として、ある種そういったたくさんの課も必要なのだろうなというふうにも思いますが、ただ私はその事情も踏まえた上であるならば、この暫定は限りなく短ければ短いほどよろしいというのが私のこれを見た感想です。というのは、ざっと考えますと本来的な人口図式に基づいたピラミッド型のスリムな組織をつくっていきまると、まずこの部制は暫定だとすると、本来的なものになったときには部長は要りません。支所が統廃合すれば支所も六つばかり要らなくなる、当然のことながら本庁の組織は課制で、支所はある種課長待遇の支所長が1人いて、あとの課は全部係でしょう。すると今回の組織図に基づいて人事をした場合に、速やかに暫定的であるならば二、三年後にはこのセクションについての部長はもう要りません。課長も支所の課長も支所長の6人も要りません。大まかに計算しますとそれだけで新しい暫定組織が本来的な組織になったときには、ほとんど幹部級クラスの人たちが六、七十人は要らなくなる勘定です。

そういった意味で、私は限りなく暫定的にさせていただきたいということが一つと、できれば本来的な組織に位置づいている管理職級はぜひとも10年以上きちんと幹部クラスで佐渡市の行方を見据えていける人たちを配置していただきたいというふうに思います。その方々が中枢できちんと10年後の佐渡市を見据えて仕事をしていただけるのであって、その他の方々はもう一踏ん張り頑張ってくれよと、ポストも用意したよということで、ぜひとも叱咤激励しながら働いていただくような形の組織なのではないかと、私はやや皮肉な見方をすればそういう配慮を持った組織図なのだなどと、あえて肩たたきというような形で直接的にしなくても、この組織図の中にうまくはまり込めば速やかに何年後かにはおやめいただけるということなのだというふうに私は理解をしました。そういった意味で、暫定というのはできれば市長の任期中に新しい図式に変わるのが一番市長の責任のもとに行われるので私はよろしいかなと、そういった意味で早

ければ2年後というふうに一番冒頭に申し上げたのはそういうつもりなのですが、そういった含みも含めて市長のバランス感覚の中でまさにお出しいただいた組織図でしょうから、さまざまな含みとさまざまな配慮の中で提出されたものだというふうに理解をしておりますので、私は速やかにそのような組織をしいていただいて温情のある人事をしていただいて、そのかわり速やかにという撤退の方向を示していただくというふうにしていただければなというふうに思っております。

これは余談も含めてですが、ただ個別……先ほども私は市長は不用意な発言をなさったのかな、午前中の同僚議員に対して、個別には問題点があるならばたたいていただいて修正のつもりもありますなどとお話したように記憶しましたが、それはいいですね……それで安心しました。ただ改めて、部制をしくということがまず今回の組織図の中では私どもが議会の方で条例事項として認める部分ですけども、私一つこの間専決も含めてですが、職員の自動車事故が頻発をしているということを含めまして、私が所属している特別委員会では組織図のときに車両課等を含めたそういった、全市の持っている車両を統括してきちんと管理するという仕掛けが必要なのではないかと、係として設定されているような感じがしますけれども、本市の抱えている車両というものの台数を全部あげつらえばかなりの数があると思うのですが、それをきちんと管理ができてきているのか、今までの形態では支所が管理をするような形でやっているのか、あるいは各所管課でというような形になっているのかわかりませんが、運転日誌等含めたことについて細かなそういった命令簿等含めた報告も含めてきちんとした管理は各課でなされているのだらうと思いますが、しかしもう少しトータルにきちんと管理をするシステムがあって、配車のことも含めた形の管理をした方がいいのではないかとというふうな考えで、委員会では中間報告でのせたのですけれども、それについてはご考慮されていなかったような気がしましたので、その点についてももし何かあったら教えてください。

○議長（浜口鶴蔵君） 齋藤総務課長。

○総務課長（齋藤英夫君） お答えをいたします。

田中議員のご指摘のとおり、現在車トータルしますと佐渡市全体で520台余りです。これは社会福祉協議会等を含めた佐渡市が持っている名義をトータルしますと520台余りになります。現実に佐渡市が使っている車は、前回の一般質問等でもお答えしたところでありますが、320台余りだったというふうに記憶しております。それだけ多くの車があります。現在その車の管理、車両の管理につきましては、支所では各支所のそれぞれの担当課、本庁ではそれぞれの所管課が管理をしております。確かに事故の報告が来ます。皆様方に議案という形で、あるいは報告という形で説明をする場面が多々ありましたし、これからはないようにしたいとは心がけておりますが、ある場合があると想定されます。私ども常日ごろそれぞれの職場には安全運転管理者を設けまして、日常の車の管理につきましてはシートベルトあるいは無謀運転の禁止だとか、安全運転には配慮したという形で運行するようにということを常々徹底しておりますし、車の安全委員会というものもありまして、そこの中でも8月に入りまして会議も開きまして周知徹底しているというところであります。

今回車両課を設置したらどうかというご意見ございました。その点につきましては、十分意見として受けとめまして、今現在車両の管理の実態等踏まえた上で、次年度以降車両課という形で持っていけるかどうか検討させてもらいたいというふうに考えておるところであります。よろしく申し上げます。

○議長（浜口鶴蔵君） 田中文夫君。

○28番（田中文夫君） 同じく組織の問題ですが、私が前回奇抜なアイデアだというふうに言われてしまった部分もありますが、ミニ動物園の提案をいたしました。新しい行政組織の中でこのような提案が持ち出されたときにどのような取り上げの仕方をし、検討し、回答が出てくるのかというのをシミュレーションでお答えいただきたいと思う。というのは、前回市長は私はたっって言ったものですから、助役を頭にして一応検討させますというようなことを言ったような気がしたのです、私。その後どうなったか、ちっともお答えございませんけれども、ただ少なくともこの問題は例えば生涯学習の問題、農林水産の問題、それから観光の問題にわたるような、そういったつまりまさに今回意図した横断的な内容を持つ提案です。それをではどこで、どのように取り上げて受けとめて協議をし、具体的にそれはだめとか、あるいはこれはこのように料理を、仕立て方をして、このようになりましたというような形の回答をいただけるのか、あるいは極めて有益な提案なのでこのような形で具体化しましたというようにお答えいただけるのか、そのちょっとシミュレーションをしてみただけですか。

○議長（浜口鶴蔵君） 答弁を許します。

齋藤総務課長。

○総務課長（齋藤英夫君） お答えします。

シミュレーションにちょっと手間取りました、済みません。今田中議員がおっしゃったようにどういう切り口からその問題をとらえるかというところだと思います。どういう切り口から入ろうか、仮に市民の方々からそういった提案があった場合に、窓口としてどこが受けるのかというところだと思います。私も具体的に事務分掌はまだ定めておりませんが、幾つか想定されます。それを秘書課の方で受けるか、あるいは総務課の方で受けるか、それを関係者集まっていたいて所管課を決めるというシステムになるかと思いますが、まだ具体的には決まっておりますが、総務部門の中で役割分担を決めていきたいというふうに考えておるところであります。

○議長（浜口鶴蔵君） 田中文夫君。

○28番（田中文夫君） 本当はそういったシミュレーションをしてこういう組織図ができ上がってくるのが一番望ましい形だと思っておりますが、確かに一応佐渡市は佐渡市になったわけですから、専門的な機能を充実させるという意味で専門家をつくっていくという、そういった意味でのことも必要でしょうが、専門家は往々にしてたこぼ方式になりやすいというのは、これは日本の伝統的な組織社会の持っているゆがみでございますから、専門家を育てていくことは同時にジェネラリストもつくらなければ、まさに先ほど私申し上げた知性と意思が秩序を保つのであって、専門家を育てる、知性を育てるという言い方でしたか、それはでき上がっても意思を持つジェネラリストがいない限りは組織は有機的に動かないというふうに思いますので、これを例えば私議会で前回言いましたから私が言ったことを市長は受けとめて、本当は助役に振ったと思ったのですが、どうも私の聞き違いかどうか分かりませんが、私は振ったと思って期待して待っていたのですけれども、答えがないと、しかし例えば私が今申し上げたことを総務課長が聞いて、おい、この問題をとってどこのセクションに投げて取りまとめさせるのかというようなことは実際は必要で、私はもっと一市民が今総務課長がちょっと言ったように、これは秘書課で扱うかどこで扱うかなんてって一市民がわざわざ本庁に行って秘書課の窓口たたいて、おい、ミニ動物園つくれとは言いません。言わないと思います。ただ私は、大都市にいたせいか、一市民はどこの窓口であってもその窓口で自分の要求

を、あるいはニーズを伝えれば役所の組織がどうなっていくと、しかるべき答えが返ってくるのを待っているのであって役所の組織がどのように動いているかなんて関係ない、ましてや佐渡の方々はある種よき田舎の伝統も含めてですけども、ずかずかとげた履きで係長、課長のところに行って横に座ってお茶が出てくるのを待ちながら、あの問題、この問題、あれをしてほしい、こうしてほしいというようなことが日常的にできてきた、そういった役所との関係の中で、いい意味での行政と市民との関係があったのだと思いますが、私はもう少しその部分については割り切れといまして、役所の組織がどんな形であってほしい、ブラックボックスでも構わないのです。要するにお金を入れれば自動販売機でぽんとジュースならジュースが出てくればいい、中身がどうなっているかなんていうことはある意味では関係ないのです。私は一市民の立場としてはそうです。そういった意味で言えば、その窓口から市民の声が、要望が伝わったときにどういうふうに動いていくのかということについてのシミュレーションはぜひしてほしいし、そうしないと生きた組織にならないのです。そういう点で、どうですか、そういうふうになりますか。

○議長（浜口鶴蔵君） 齋藤総務課長。

○総務課長（齋藤英夫君） お答えします。

言葉足らずでありました。そういう相談が来たときに、まず総務部門の方に相談来たらというふう考えたわけですが、田中議員おっしゃるようなどういう部署にそういう相談がいきましても、それを交通整理をするという部署としてどのセクションかなというところでお答えしたつもりでありました。今佐渡市の中でも住民相談室を設けておりますし、また広報広聴の方で市民の声ということで、市長への手紙ということでいろんな方々から意見等ちょうだいいたしましても、それをまた市民の方にお返しをするというシステムについては充実をしていきたいというふう考えております。

○議長（浜口鶴蔵君） 田中文夫君。

○28番（田中文夫君） 余り個別にわたって組織の問題をあげつらいたくないの、代表的なことだけ拾って今お話しさせてもらっているのですが、もう一つ、だから今言った話というのは、私は中枢で、基本的には市長含めた幹部クラスがきちんと情報を一元的に管理できるということが必要なのだと思います。と同時に、情報を管理したものを一元的に発信することも必要です。その点からすると、どうも今回特命係とか各種つくりましたが、それがひよっとするとそういったある種市民相談室みたいな形の機能を行うのかなと、よろず相談みたいな形で受けとめて、それをこの組織図に基づいてきちんと中枢まで届くような形の仕組みになっていけばなというのは私は思いますが、と同時に情報の一元的な管理というのは受ける側が基本的に全部集中して受けとめると同時に、受けとめたものについて改めて答えをするというふうに思いますが、私が憂慮しているのは室ができるときに秘書室ができました。何人かの同僚議員とこんなふうにしたのです。助役2人制にして、なおかつそれに輪をかけて秘書室だと、すぐイメージわくのは皆さん同様だと思うのです。江戸幕府が政治、政を行うときに老中、大老が仕切るのか、それともお庭番あるいは茶坊主が仕切るのかという、これはということで、どちらがどのように市長の意を受けて仕切るのかということで見渡したわけですが、とりあえずは秘書室はお庭番とか茶坊主という……用人です。田沼意次みたいな用人です。にはならなかったようですが、逆に先ほど助役の話を知ると市長のスケジュール含めて助役のスケジュール含めたさまざまなことについての日程、スケジュールの段取りについてなかなかきちんとうまくいっていなかったようなお話をちょこっと述べましたが、今度は秘書課になりました。

秘書課になったために、広報機能を持つようになったです。そうすると広報機能は秘書課と、今ケーブルテレビの方をつかさどっている情報何とか、その部門と、つまりデジタルとアナログで2本立てになるわけですが、それを統括するということは、例えば部長という部長ではないのです。つまり広報を統括する機能が見えない。そのときに、これはこれから防災無線の問題も含めて各支所には広報機能とデジタルのケーブルテレビと各支所が今まで自前で持っていたさまざまな通信手段があります、それも使っているわけだ。そうすると、その三つの広報の流れをきちんとコントロールできているか、あるいはそれをきちんと進行管理しているかということについては極めて危ういというふうに思いますが、そういったことの調整機能は私が見た限りではないのですけれども、それはどうですか。

○議長（浜口鶴蔵君） 齋藤総務課長。

○総務課長（齋藤英夫君） お答えをいたします。

今ほどご指摘のありましたことにつきましては、内部でも当然議論させていただきました。それが1カ所でやった方がいいのか、あるいは別のままでいいのか、それ以外にも伝達の手段は幾つかあるわけでありまして、それを統括する部署としてどの部門が適切かというような議論させていただきました。現在秘書課と秘書課の中に広報広聴の係と、それから情報政策のもとに情報センター室という部署がありますが、今その情報センター室の方では映像、それから文字放送、そして通常の線の保守管理等あるわけでありまして、現在の中では今情報センターの方に情報センター室として置いて、この後18、19年と2カ年に分けましてケーブルテレビの整備を進めていかなければならぬということで、今回一元化ということは難しかったわけでありまして、広報部門、広聴部門につきましては秘書課の中の広報広聴が全部を仕切り、そしてその中で目配りをしながら情報伝達をしていくという形をイメージして、今回できるだけ統一するという形で持っていきたいというふうに考えていたところであります。

○議長（浜口鶴蔵君） 田中文夫君。

○28番（田中文夫君） きちんと一元管理というのは、佐渡市もそういった意味では速やかに事業の効率化も含めた、スリム化もしていくときに市長がまさに目指したのはITを含めた情報の一元管理、まさにそれが政治をつかさどるときに最も重要な武器になるというか、方法を考えたからだと思うのです。まず、ケーブルの問題も含めてそういった問題に着手したのは。そういう点で情報の一元管理ができなければ、やっぱり市政を円滑に速やかに進めることが難しいというふうに私は思いますので、そういった意味でもう少し検討する余地はあるかなというふうに思います。

あとこれは、来年度予算はほぼ私は骨格で決まっていると思うのですけれども、あえて具体的にこれはやりますよというふうに言いたくないのだと思うのです。本当は言っていれば、おおと思うのですが、ですのもう考えていच्छゃると思えば駄弁になりますが、佐渡島民が一つに集まれる機会、催しをもうそろそろしていただきたい。佐渡市市民祭りとか、国仲、佐和田、真野、畑野、新穂、金井なんかでやっている行政がでっち上げたイベントはやっていることはみんな同じです。あれを一つにまとめて同じ予算使って三、四日続けてやったら、少なくともにぎやかなお祭りになるのではないのでしょうか。そろそろそういうことを考えてください。あるいは市民運動会とか、そういったつまり市民が、今までは島民でした、市になったわけですから、市民が一堂に会して一つになったことを喜び合えるような場をぜひつくっていただきたい。小木とか相川とか両津とか、観光に根差したイベントやお祭りみたいなものは、こ

それはその地域、地域で特色持ってやっていただく必要があるでしょうけれども、一堂に会してということを目的にし、つくり上げたイベントやお祭りならば、佐渡市になったらやっぱり一つでやらなければ、少なくとも動員が2万人、3万人というような、そのくらいの目標を掲げてぜひともやっていただきたい。それは、それほど難しいことではないと思うのです。

ぜひお願いしたいということと、これは甘い方のきょうの晴天に合ったような話ですが、もう一つは辛口で済みませんが、指定管理者は来年度の8月を目途にどうするかというになるわけですが、当然予算練りのところでもう既にその問題というのは出てくるはずなのです。前回も口酸っぱく言いましたように、市営にするか指定管理者にするかの二者択一ではないよ、その前に民営化の問題や処分の問題や廃止の問題があるのだよということと、まず頭に入れていただく、それは頭に入れて既に作業に入っているでしょう、当然。これとこれは、もうやめたと、これは要らない、くれる、残ったものについて、では指定管理者に出すかと、これは市直営でいくかと、それにしても委託していたものについては1割削減でいこうかといったことは当然指示が出ているでしょう、市長。出ていますよね。ぜひともそれは年度の途中で切りかわっていく問題なので、それは当初に当然指定管理者に出すべきものはそのことを想定した予算設定をしなければならぬというふうに私は思いますが、そのことも含めて準備もぜひあと三月はないです、もう。ぜひともやっておいていただきたい。あとは、支所から上がってきたものを当てにして、それをたたいていくという構図ではなくて、本庁の所轄課が企画をし、イメージしたものをきちんと下におろして点検させるとかというふうになりませんか。それがぜひとも私は必要な時期に来ている、そうしないとこれは支所が立案してきたので知りませんなんて言って、細かいこと聞くとわかっていなかったり、いや経過があつてずっとやっているの、一々そこまでチェックしていませんとかなんていう補助金絡みの事業があつたりするようでは、それは来年度予算では許しませんよ、そんなことは。と思いますが、ぜひそのような心構えで取り組んでいただいていると思いますが、市長何か一言あれば伺いたいです。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） 最初の市民祭りみたいなのは非常に、今度は本気で検討させていただきます。ちょうど観光協会の統合と合わせて、今までの観光協会が持っている市民向けの祭りと、それから観光客を相手にした祭り、あるいはどれぐらいそれが入りまじっているかという今調査で合併をしようとしています。それと同時に商工会や地域の実行委員会でやってきた祭りがありまして、それをぜひ予算としても統合したいということを考えています。当然今までばらばらやってきたやつは統合すべきという意見がたくさん出ていますし、市民祭りというところまではいいんですけどけれども、これは十分その中で検討させてもらいたい。

指定管理者制度については、この間市民や議会の批判が非常にたくさんありました。この問題については、今検討しながら次生かすかどうか、今議員がおっしゃられたように統廃合まで含めて、廃止あるいは譲与まで含めて検討するように指示を出してありますので、それも時間結構かかるのではないかと、地域で大事にしてきた施設でもありますから統廃合は非常に時間かかると思いますが、しかし方向だけは出したい。その決着がつくまでは当面直営であっても、必ずその結果を出して前へ進むというつもりにしていますので、よろしくをお願いします。

○議長（浜口鶴蔵君） 田中文夫君。

○28番（田中文夫君） 市長のお好きなバランスです。職員には人情を持って、経緯と伝統とを持った施設については、それなりの配慮を持ってということですが、ただそれも速やかに、それほど長く引っ張らない、できれば2期目は別として、今任期中に具体的にやっていただきたいと思います。それを申し上げて、私の質問終わります。ありがとうございました。

○議長（浜口鶴蔵君） 以上で田中文夫君の一般質問は終わりました。

ここで10分間休憩いたします。

午後 2時43分 休憩

午後 2時54分 再開

○議長（浜口鶴蔵君） 再開します。

島倉武昭君の一般質問を許します。

島倉武昭君。

〔6番 島倉武昭君登壇〕

○6番（島倉武昭君） 新生クラブの島倉武昭でございます。議長のお許しをいただきましたので、一般質問をさせていただきます。通告によりまして、4項目につきお願いをしたいと思います。質問の流れの中で横道へ入るやもしれません。そういうときにはひとつよろしくお願ひしたいと思います。内容等も単純でございます。低レベルのものですが、議長が言われるように簡潔にご答弁等をお願いしたいと、こういうように思います。

第1点目ですが、平成18年度市の組織改革、これは既に7人の先輩議員の方がつつ克明に質問されておりますので、私は単純に市民の方がどの程度の動きがあるののかなということをお聞かせいただきたいということで質問させていただきます。部制、今までにも6部24課とかという話が出ておりますが、部の数が幾つで、局の数が幾つになり、また課の数は幾つになって、その下へかかる係の数はいかほどになるのかについて伺いたい。

また、2番目としては、各支所、協議会においても改革がされるわけですが、以前から比べてどの程度増減なりが出てきておるのか。

それと、3番目として17年度新設した20の室ですか、これがたしか広報等でつつ紹介をしておる最中なのですが、既に8カ月、9カ月で変更の形がとられるということです。この配置の変更についてお聞かせください。

それと、4番目、今回の改革で各支所より本庁へ何割の人を配置転換させるのか、その予定人員、本庁の支所総職員数は、今ある職員数よりはどれくらい多くなるのか等についてお伺いしたいと思います。

次に、この改革でいろいろ話ありますが、一番心配されるのは地域住民ではないかと思ひます。各支所では課、係が減りますし、職員がそれについて減少するわけですが、そうした場合は、いつ起きるかわからないのが災害でございます。そのときに地元職員が減った時点で、緊急時の防災対策は大丈夫なのかどうか、住民に十分な対応がその人数でできるのかどうかについて伺いしたいと思います。

次に、2項目の農政について2点ほどお願いします。佐渡の農業生産は水稲が中心でありますし、去年は作況指数51という大被害でございました。今年は、17年度産については作況指数が99と平年作を確保で

きたわけですが、このたびまた例年のことですが、12月に国から来年度、06年度の転作配分が提示されてきました。この転作配分について、たしか06年度は3,550トンの減少された配分になる、昨年やっと数年続いた30%の転作率が27%まで下がってきたわけなのですが、また来年度はこれだけの超過が来たわけです。新潟県は売れる米づくりを推進し、有利な販売をして国の当初の方針ですと転作等はふえない予定だったのですが、これだけふえてきたと、これが今度恐らく12月に佐渡市に配分されるのではないかと、昨年も私はどういう配分するのだからということでしたのですが、ことしまたこの配分が来た場合に佐渡では農家の方へ一律配分をするのですか、それとも昨年非常に地域に災害の差が出てきました。そのことについて、傾斜配分等を考えているのかについて、市の考えをお伺いしたいと思います。

次に、先般12月25日に広域農道佐渡線が52年から17年までの29年の歳月をかけて真野側で竣工式が行われました。真野、畑野、新穂、両津一部の沿線農家の方においては長年の夢が実現し、農作物の輸送はもとより、生活道路としての供用もでき、また観光道路としても期待できるものではないかと思えます。今回竣工した広域農道佐渡線の先、真野小川内より小立までの間は既に県道一般農道真野西部過疎農道として開通し、地域住民の農業生産に非常に貴重な役割を果たしておりますが、小立より先、椿尾までの間については、十数年前に1度地元住民に法線の話が示されたが、その後の計画は進んでいません。今回国営、県営総合土地改良事業の計画で、外山ダムより県営真野幹線用水路が椿尾より小立まで通過する計画ですので、今北陸農政局が佐渡に事務所を開設し、この工事をやっておるわけですが、この機会にぜひ新規に椿尾・小立間の県の事業申請を国営、県営総合土地改良区事業のパイプ敷設と併設しての広域農道事業の計画について、市長にお伺いをいたします。

次、3番目ですが、建設関係について、現在佐渡には両津・小木間の国道350号線がありますが、この区間でまだ歩道のない区間は何キロぐらいあるか、お伺いします。佐渡市合併後、国道工事が依然として非常に減少しているように思われるが、15年度、16年度でどの程度島内で国道工事が実施されたのか、伺いたいと思えます。

佐渡市に1路線しかない国道350号線の道路改良工事が早期実現されるよう国、県に要望していただきたいと思えます。また、改良拡幅工事が進んでいない田切須・西大須間について工事計画実施年度はいつごろになっているのかについて、市長にお伺いをいたします。

4点目ですが、教育関係についてお伺いします。先般議員の方からたくさんの質問が出ております学校統合、学区見直しについてであります。これは答弁は同じものだと思いますが、一つ、昨日も話がありましたが、今13と16校、小中学校あるのですが、支所別の学校数を伺いたいと思えます。

次に、今年4月、小中学校の入学式に招待されまして行ってきましたが、一つ感じたことですが、今までの長年学校へは行ったことないのですが、ことし行って初めて気がついたのですが、市関係者、教育関係者が一人も学校の年に1回の卒業式、入学式に出席をしていない、これは合併の間もあるとは思いますが、どういう理由でこういう形になったのか、今少子化で非常に子供が少なくなって、その少ない上に大人までが学校を避けておるといことは非常に子供の教育上よくないことだと思います。どういう理由と、これからの対応について市長と教育長にともにお伺いをして、私のこの席からの1回目の質問は終わります。

○議長（浜口鶴蔵君） 島倉武昭君の一般質問に対する答弁を許します。

高野市長。

〔市長 高野宏一郎君登壇〕

○市長（高野宏一郎君） それでは、島倉議員の質問にお答えします。

平成18年度佐渡市の組織改革についての詳細でございます。あらましについては、市長の方から述べさせていただきます、詳細は課長の方から説明させることにいたします。

最初に、部、局、課、係の数についてですが、部については新聞報道もされていますが、総務、企画財政、市民環境、福祉保健、産業観光、建設の6部制を考えております。その下につながる詳細は課長の方からさせます。

それから、支所は各支所教育委員会の組織体系についてでございますが、支所は規模により三つのパターンを描くというふうを考えております。基本的には横断的に対応できるような課、係の統合も考えております。詳細は課長の方から願います。

それから、平成17年度新設した20室の配置についてはどうするのかということでございますが、これは先ほども質問の中でお答えしたようにスクラップ・アンド・ビルドの方針で必要なものは維持あるいは昇格、ある程度目的が達成されたものについては係に戻すなどやらさせていただきます。これも内容等課長から説明させます。

緊急時の防災対策ですが、このことは既にお話ししたとおり防災体制の職員の配置計画を作成し、職員に徹底させることにより対応したいと考えておりますが、そうは言いつても今まで支所にそれなりの数が配置され、地域の方が主に担当しておりますので、その内容については課長の方から説明させます。

農政対策について、平成18年度産米目標数値の数量配分についてお問い合わせがありました。18年度の目標数値、数量配分につきましては、11月24日の佐渡市水田農業推進協議会で協議をされました。そこでは、地域反収を10アール当たり522キログラムとし、佐渡市一律の均等配分をすることで承認されました。この方法は17年度も同様ですが、支所間の調整を容易にし、つくれる面積を残さないという、そのためでございます。詳細は課長の方から説明させます。

それから、農政対策についての中の（2）で、広域農道整備事業の今後についてお問い合わせがありました。県営一般農道整備事業で実施しました真野西部地区は、昭和60年3月から平成13年3月にかけて事業実施され、総延長3,428メートルが完成しております。真野の大小地区から先日竣工式を行いました広域農道佐渡線を通して両津地区までの広域交通体系がこの農道によって確立されております。ただ用地の関係で、終点部約400メートルを残し、既設の市道に取りつけて完了しております。今後の真野地区の計画でございますが、さらなる広域的機能を発揮するには大小から椿尾を経由して羽茂地区へ通ずる農道として、これは議員もおっしゃられましたが、仮称で真野南部地区の整備が進められればと現在検討中でございます。

それから、両津・小木間の国道350号線に歩道のない区間はどれぐらいあるかということでございますが、国道350号線は平成16年度末で区間の総延長が46.3キロであります。その中で歩道がないところは県の資料によりますと、両側とも歩道のない区間が8.6キロ、片側しかない区間が17.3キロとなっております。これも詳細は課長に説明させます。

それから、佐渡市田切須・西大須間の改良工事について、ご存じのように真野大小地区から大倉谷地内

の約1.8キロ間は改良計画の地元説明会を平成14年度に3回ほど行っています。しかし、法線について地元では現道拡幅案とバイパス案で意見が分かれているというふうにお聞きしております。現在国道350号線については、両津国仲バイパス整備を優先して工事が進められておりますが、大小地内から大倉谷のこの区間については、県も道路改良が必要だという認識でありますので、佐渡市としても早く着手するように働きかけをしたいとは思いますが、地元関係者全員の合意形成が現在得られておりません。そういうことで、何ほどご協力のほどをお願いしたいというふうに思っております。

児童数の減少等あるいは入学式、卒業式に市の関係者が出席しないということにつきましては、教育長の方から説明をお願いします。

○議長（浜口鶴蔵君） 教育行政について答弁を許します。

石瀬教育長。

○教育長（石瀬佳弘君） それでは、教育行政についてお答えいたします。

学校統合関係につきましては、前の議員さんにもお答えしましたが、検討委員会の答申を受けて教育委員会で協議しながら早急に対応していきたいと、このように考えております。

次に、支所別の学校数であります。申し上げます。両津が小学校11、中学校5、計16、相川が小4、中2、6、佐和田が小4、中1で5、金井が小2、中1で3、新穂が小2、中1で3、畑野が小4、中2で6、真野が、これは分校が含まれるわけですが、小3、中1で4、分校除くと3ということになります。小木が小2、中1、3、羽茂が小3、中1で4、赤泊が小2、中1で3、合計しますと小学校が36プラス分校1と、中学校は16、合計52、これに分校がプラスすると、こういうことになっております。

それで、卒業式に、あるいは入学式に市の関係者、教育委員会が出席しないがどうかというご質問でございますが、これにつきましては実は合併協議会の教育部会でも相当議論したところであります。その結果、合併前は市町村長や教育委員等々が出席していました。例えば両津はちょっと多くて、これ同時にやるものですから、小学校で11あったわけですが、市の三役と教育委員5名で8名になります。両課長がおりましたので、10名、足りないところを公民館長をお願いして、全部がそろうことはありませんので、課長補佐まで対応すると、こういうことで一応市の方から行っておりました。ところが、合併後は小学校が今申し上げましたように36、中学校が16というようなことで、すべての学校に出席するということではないのかと、本当は出席して児童生徒の皆さんあるいは保護者の皆さん方にお祝いをお伝えするのが一番いいわけですが、こういうわけで無理だろうということで、大体同じ、もっと多い新潟市とか長岡市とか上越市あるわけですが、そういうところの状況も聞きまして、ではメッセージを送ろうということで、今はメッセージを送っております。交代で出てはどうかというのもあったのですが、何年に1度出席するというようなことで、これもちょっと行くところと行かないところでぐあい悪いのではないかと、今のような形をとっております。これは、また一部私の方にもやっぱり市の関係者が来ないのは寂しいというような声もありますし、本来は例えば卒業式ならば校長先生が子供たちに卒業証書を授与するのが基本でありますので、メッセージでいいのではないかと、いろいろな意見がいろいろありますけれども、議員のご意見もお伺いして検討させてもらいたいと、学校現場の意見も聞きながら検討させてもらいたいと思います。

以上でございます。

○議長（浜口鶴蔵君） 齋藤総務課長。

○総務課長（齋藤英夫君） 組織の関係につきまして補足してお答えをいたします。

平成18年4月1日から予定されております市長部局の課の数であります。部につきましては先ほど申し上げました六つでありまして、課の数につきましては現在14の課がありまして、これを24の課にしようというものであります。それから、教育委員会では現在2課を4課、それからその他選挙管理委員会事務局、それから監査委員事務局、農業委員会事務局等につきましては変わっておりません。係の数では、現在市長部局で60の係ありますが、これにつきましては78にしようという計画であります。

内容を申し上げます。現在総務部では総務課、秘書課、防災管財課、行政改革課という四つの課を束ねる部として総務部を置こうということでありまして、申し遅れましたが、会計課につきましては兼掌条例今回提案させてもらっております関係上、会計課につきましては検証助役直属という形になります。企画財政部といたしましては、四つの課を束ねるということで、財政課、工事管理課、企画振興課、情報政策課を束ねるようにしたいと考えております。市民環境部につきましては、市民課、税務課、環境課、廃棄物対策課の4課、福祉保健部につきましては社会福祉課、高齢福祉課、保健医療課、産業観光部につきましては農業振興課、農地林政課、水産課、観光課、商工課、それから建設部につきましては建設課、上水道課、下水道課の三つの部を束ねる建設部ということを予定しております。それから、教育委員会につきましては、従来の学校教育課、生涯学習課に加えまして社会体育課、文化振興課という形で組織の改正を考えております。

それから、室の関係であります。室の関係につきましては現在課に昇格させようという室につきましては、五つ考えております。秘書課、防災管財課、行政改革課、それから工事管理課、それから環境課、環境保全室を含めての対応であります。環境課というものであります。それから、従来どおりやっていたというものが九つあります。内容については省略させていただきます。

それから、係に整理しようというものが六つであります。室の関係につきましては、従前の九つの室と、それから新設を考えております四つの室を合わせまして13の室で対応していきたいというふうに考えております。四つの内訳につきましては、子育て支援室、それから合宿・体験学習誘致室、用地対策室、それから内容を変えましてトライアスロン事務局をトライアスロン推進室という形の四つの室であります。

それから、現在の本庁、支所の人員の関係であります。現在の数字では平成17年度の4月1日現在であります。議会につきましては8、それから市長部局であります。これは、各施設、クリーンセンター等、それから保育園、待鶴荘、それから病院等含めましてのトータルの数字であります。824、選管が2、監査が2、農業委員会が7、それから教育委員会が201、社会福祉協議会の方に出向が5、それから支所が461、消防署が203、トータル1,705という数字になっております。それぞれ平成18年度の組織の改正に当たっての人数割であります。今本庁と支所の業務の分担について協議をしております。仕事が動きによって人の動きも変わってくるということでありまして、今お示しできる数字というのはまだないわけではありますが、イメージとしては支所については従前八つの課がありましたところにつきましては六つなり五つ、それから六つの課があったところについては四つということで、間口を広くとるようにして組み立てを考えております。そういう関係で、支所につきましては間口が広がって課が少なくなった分だけ人数は当然ながら縮小されてくるだろうというふうに思います。詳しく数字まだお答えできる段階にあ

りませんが、ご了解を願いたいと思います。よろしく申し上げます。

○議長（浜口鶴蔵君） 本間農林水産課長補佐。

○農林水産課長補佐（本間俊一郎君） お答えいたします。

来春の米の作付につきましては、先ほど市長が答弁したとおりでございます。一律平均でお願いしたいと思っております。

以上です。

○議長（浜口鶴蔵君） 佐藤建設課長。

○建設課長（佐藤一富君） お答えいたします。

国道350号線の歩道のない区間がどれくらいあるかという質問の中で、どの程度15、6年度に進められたかということですが、両方ともない歩道の区間につきましては先ほど市長が申し上げたとおりであります。現在国道の350につきましては両津バイパス、湊から秋津、それから国仲バイパスにつきましては大和から中原というようなことで、それぞれ工事を進めているわけですが、歩道につきましては佐渡地域振興局の地域整備部の中で、社会資本整備四つの基本方針の中に安全な歩道空間の確保、それからバリアフリー化の推進ということ掲げておまして、その中で歩道につきましては危険な箇所につきまして県単事業で実施しているというのが実態でございます。そういったことで、どの程度15、16年度に進められたかという資料は今現在ありませんが、県単事業として国道については現在進められているというようなところでございます。

○議長（浜口鶴蔵君） 島倉武昭君。

○6番（島倉武昭君） それでは、2回目の質問させていただきます。

今課の人員等お聞きしたわけなのですが、あの旧金井庁舎、あそこに私もたまに行くのですが、824名ですか、非常に、ウサギ小屋と言うと失礼なのですが、果たしてあの間隔で住民対応してよい仕事ができるのかなというのがあそこへ入った感覚なのです。非常に混雑する、またそれに今度この改革でいけば、またこの数はふえるのではないかと思います、そのあたり課長、どんなものです。

○議長（浜口鶴蔵君） 齋藤総務課長。

○総務課長（齋藤英夫君） お答えをいたします。

先ほど824という数字を申し上げましたが、その中には病院、待鶴荘等が含まれておることでありまして、それを除きますと321人です。済みません、そのことを申し添えさせていただきます。今現在この321人が本庁舎、そして本庁周辺の就業センター、あるいは本庁部局に入っておる情報センター等についてはそれぞれの支所に配置をされておるわけですが、この後この組織について人員増が当然見込まれるわけですが、それらについてどういう配置の形がよろしいのか、それについてこの後検討していきたいということでありまして、本庁舎の周辺施設あるいは支所等に分散配置ということも当然考えていかなければならぬというふうには考えておるところであります。

○議長（浜口鶴蔵君） 島倉武昭君。

○6番（島倉武昭君） わかりました。800という数字なのだから、私もちょっと驚いたのですが、それはそれとして、一つ組織改革の中で、これはいいのか悪いのかわかりませんが、意見を述べさせていただきます。

先般第3次小泉改造内閣で猪口邦子さんという方が少子化男女共同参画大臣ということで出てきました。私は、どちらでもいいといえばそうなのですが、この機構をこれだけ改革するのであれば、国がそういう制度なり大臣までつくって今後の全体の少子化を考える中で、なぜ子育て支援があるのに少子化対策のところがないのだからというのちょっと疑問に持ちます。少子化対策がした後に子育て支援が出るのがいいのではないかと気がしますが、それを1点聞かせてほしい。

それともう一つ、地域防災の件なのですが、支所から本庁へ多数の方が異動するわけなのですが、先般も真野にちょっと災害等があったのですが、やはり地元で10年、15年のキャリアを持っておる人たちは、いざ災害のときに、うちの屋号を聞いてもその対応ができる、新しく異動等で来た人についてはなかなか2年や3年ではその対応は難しいのではないかと、防災体制を立てるのであれば、やはり今でも年1回ないし2回台風、水害という事故は毎年起きないことはないような状態でございます。それにいち早く市民のニーズに対応するには、防災体制というのは昨日先輩議員の方が話がありましたように、やっぱり地元の人を優先した防災体制、本庁に行って幾ら指示を出したところで地元へ行って市民の中へ入っていくのが一番いいことであって、ただ上で指示を出しておるだけでは何ら防災、それから救急体制がならぬと思いますので、その辺はこの異動で本庁へ集中した後も考えていられるのかどうかについてお伺いします。

○議長（浜口鶴蔵君） 熊谷社会福祉課長。

○社会福祉課長（熊谷英男君） お答えいたします。

少子化対策も含んだ子育て支援室ということでお願いをし、今のようなスタイルになっておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○議長（浜口鶴蔵君） 齋藤総務課長。

○総務課長（齋藤英夫君） お答えをいたします。

防災の関係であります。さきの議員の質問にもお答えをいたしました緊急時の職員の初動態勢等ですが、現場を知らない人がいてはどうかということですが、そのあたりにつきましても異動していった職員も勉強していただくということが必要だと思っております。ただやみくもに入れかえをすることはどうかという思いもあるわけですが、そこに配置をされた職員についてはできるだけその地域の実情を知っていただくということも、私ども職員としては身につけていかなければならぬかなというふうには考えております。ただ緊急時の防災と対策については、防災体制の職員の配置計画を立てまして徹底していきたいというふうには考えております。今の議員のご意見等についても参考にさせていただきたいと思っております。

○議長（浜口鶴蔵君） 島倉武昭君。

○6番（島倉武昭君） 今社会福祉課長からの話わかりました。私は、単純にこの上の方の組織図を見ると、子育てよりは少子化対策の方が先ではないかという気がします。ちょっと道を外れるかしれませんが、非常に子供の数が少なくなったといいますが、子供の数が少なくなったのは結婚婚期の遅れが大部分を占めておるのであって、私の地元にも同じ学区で以前七、八十人子供がいたのが今36人しかいません。別に世帯数が減ったわけでも何でもなし。その中にやはり三十数名の人たちが25歳から45歳、50歳ぐらいの間の方が独身でおると、その方が結婚して子供を1人、2人持っていたら学校問題も社会の少子化もすべて解決できる。私、昨年12月にトキの舞う佐渡へ嫁さんと呼んだらどうだということで提案させてもら

ったのですが、いや、それはだめだということだったのですが、やはりそういうところから入れなければ
幾ら子育てをするとか、いや何とか言うたっても佐渡の人口はふえないし、活性化はできないのではない
かと、こういうふうに思っております。これは、私の意見で結構なのですが。

それと、最近私が知っておるところへ外国から2名の奥さんが来ていただきました。私が縁があってち
ょうど歓迎といいますか、一回飲む席へ出たのですが、やっぱりそういう人たちがふえてきていただくこ
とは非常にありがたいので、子育て支援になるのだから何かわかりませんが、そういう佐渡島外から入った
若い奥さん方にやはり市として何か手助けをする方法はないかということで、ちょっと話をしたら、たま
にはそういう人たちの集まりを持ってほしい、そして交流をさせていただければ、やはり佐渡へ来た人の
話を聞くと最初の子供が保育園へ出てしまえば、また仲間が非常にふえるのです。佐渡へ来ても保育園ま
で子供が行く二、三年が非常に寂しいという話でございます。ひとつ子育て支援の方でも何でも結構です
が、そういう人たちというと、失礼ですが、そういう島外から佐渡へ来た人たちのグループの育成、また
交流をこれから考える道はないか、福祉課長にお伺いします。

○議長（浜口鶴蔵君） 熊谷社会福祉課長。

○社会福祉課長（熊谷英男君） お答えいたします。

少子化対策というのは一福祉だけでできる問題ではありません。教育の問題、住宅の問題、医療の問題、
雇用の問題、それぞれがかかわっていただかなければなりません。先ほど議員おっしゃったことも参考
にして18年度以降取り組まさせていただきますと、こんなふうに思っております。

○議長（浜口鶴蔵君） 島倉武昭君。

○6番（島倉武昭君） 雇用の問題もあると思いますが、大体佐渡へ来ていただけて結婚する人はもう家つ
きなのです。カーつき、家つきなのです。だから、雇用も確かにあるかと思いますが、私昨年も中国から
来た人と三、四日話をしたのですが、いいところだと、ところがやっぱり寂しいということなのです。そ
ういうところをどういう形になりますか、そして佐渡が行ったら非常に友達もできてよかったというこ
とになれば、またその人たちが第2、第3の友達を連れてきていただけると、そういう道もあるわけな
のです。それを、いやそのことはどちらでもいいや、来た者はということではなくて、佐渡の今少子化とい
う件につきましては、以前に話した家つき、カーつき、ばば抜きではないですが、家つき、カーつきな
のです。だから、生活も別にすぐ勤めに出て雇用云々をする以前の問題で、来ていただければ生活はそう
都会の緊急した状態ではないということですので、ひとつその辺を市長さん、どうですか、何かいい方
法を考えてくれますか。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） サンフラワーという会がありまして、佐和田が非常に熱心にやっております、
それでそれをちょっと説明させたいと思いますので、企画課長の方から説明させます。

○議長（浜口鶴蔵君） 中川企画情報課長。

○企画情報課長（中川義弘君） お答えいたします。

今ほど市長が言われましたとおりに、外国からお嫁さん来た方々がいろんなことで人数が少ないとい
うようなことになっております。島内に相当の数がおられるということで、サンフラワーの会というのを今
つくっております。その人たちは月に、私ちょっと余り詳しくないのですが、何回か集まって料理の勉強

したり、お互いに子育ての話をしたり、いろいろな話をして元気をつけて帰るといふ会があるのですが、ぜひそういったところへ今後入っていただければ、またご紹介等もしたいなというつもりでありますので、よろしく願いいたします。

○議長（浜口鶴蔵君） 島倉武昭君。

○6番（島倉武昭君） 非常に心強い答弁をいただきました。ぜひそういうひとつサークルを佐和田だけではなくて、やっぱり島内全域を広げてせつかく佐渡へ来ていただいた人たちの仲間づくりに力をかしていただきたいと、私もそういう話を聞きましたので、彼女らに今度会いましたら佐和田にはこういう会があるということ……

〔「全島です」と呼ぶ者あり〕

○6番（島倉武昭君） 全島こういう会があるということをもひとつ伝えたい。私の認識も不足であつてまことに申しわけありません。よくわかりましたので。

それでは次に、農政関係なのですが、佐渡の基幹産業である農業総生産が150億余り、その8割強が水稲だということで、去年は99の平年作でまずまずだったのですが、一昨年55ということだったので、できれば一律配分に決まったということですので、これを変えろとは言いませんが、行政がこの配分を行うのは16年が最後でしたね。たしか17年度からは生産者団体へ移行されたと思います。間違いありませんか。

○議長（浜口鶴蔵君） 本間農林水産課長補佐。

○農林水産課長補佐（本間俊一郎君） お答えいたします。

そのとおりでございます。

○議長（浜口鶴蔵君） 島倉武昭君。

○6番（島倉武昭君） そうすると、今回佐渡へはまだ面積の配分はないわけですか、来て配分するとの程度、昨年やっと27%ということで、農家の方は30%を割ったことで非常に喜んでおられるわけですが、来年の増加してきたのに対する割り当てはどの程度上がるか、わかりましたら教えてください。

○議長（浜口鶴蔵君） 本間農林水産課長補佐。

○農林水産課長補佐（本間俊一郎君） お答えいたします。

県からの数量配分は間もなく来る予定でございます。中身につきましては、ちょっとわかりませんが、以上でございます。

○議長（浜口鶴蔵君） 島倉武昭君。

○6番（島倉武昭君） まだ県から来ておらなければ配分も、ただ決まったというだけでは各戸の配分わからないと思います。それは結構です。

それでは次に、農政に絡む関係なのですが、今道路については非常に飛行場もそうだと思いますが、同意がないと着手できないということなのですが、この区間、小立から椿尾までの区間なのですが、話を聞きますと羽茂地区はもう小泊まで道路ができておることです。今回二十数年の歳月をかけた真野から両津までの立派な農道ができたわけなのですが、椿尾・小立間が何とかつながれば国道350号線と並行しまして、非常にこの後災害等があった場合に小佐渡にとっては重要な道路と位置づけられると思いますので、土地の関係があれですが、これは市長、やっぱり今は飛行場と同じ全線同意が得られないと着工の見込みはないわけですか。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） この件につきましては、飛行場と違ってご存じのように地権者の例の問題があつてなかなか前へ進まないというふう聞いております。その後の経過について、私ちょっと知り得ていないので、課長の方から説明させます。

○議長（浜口鶴蔵君） 本間農林水産課長補佐。

○農林水産課長補佐（本間俊一郎君） お答え申し上げます。

議員指摘の椿尾・小立間の件でございますが、先ほどの関連事業との関係もございまして、これから検討に入る予定でございます。

以上です。

○議長（浜口鶴蔵君） 島倉武昭君。

○6番（島倉武昭君） 確かに私も地元で難しい点があるとは思いますが、ひとつこの国営の事業と併設した形で、ぜひこの区間を早期に計画化なり着工できるようにご尽力をお願いしたいと思います。

建設課関係、申しわけないのですが、私ちょっと上がったせいか忘れてましたが、今年度の除雪計画についてお聞きをしたいと思いますので、後でお願いします。

それは、また後として、私が国道350号線の西大須から田切須まで、これをぜひお願いしたいということは、あそこは小さな子供たちが通う通学路なのです。今南部口から朝通勤される方が見ていただければわかる。今までは3キロほどの倉谷地域には子供が1人か2人しかいなかったのですが、ここへ来て小さい1、2年生がふえて、6人、来年は7人ぐらいになります。昔は右側通行とか何とか言っていたのですが、今は国道になってある程度の改良ができたものですから、車のスピードも40キロ制限が50キロ制限に上がったと、そうすると50キロだと皆さんご存じのとおり60キロまではスピード違反にひっかからぬという、非常にその関係でスピードが上がり危ないのです。小さな子供がこれから冬場、北風のところに小さな傘を差して山側を1列になって歩いておるわけなのですが、田切須から先については通学歩道が立派にできておるので、少なくとも倉谷までの区間、それから大小地区につきましても三、四人いますか、ほんの200か300メートル市道から国道へ出て歩くだけなのですが、非常に冬場風の強いところで危険の状態でありますので、事故が起きてからでは遅いし、ひとつ何とかこの点をお願いしたいです。話があつて、大臣の方へ話したが、それは市から上がつてこない私はどうもならないという返答をもらった、どこまで本当かわかりませんが、そういう形ですので、市の方の対応が私が聞いた時点では遅れておるのではないかと、国仲の改良に集中をして、その地域が遅れておるのではないかとこのことを危惧いたします。羽茂の議員さんもおりますが、南部から国仲へ通勤される方、あるいは佐渡市の職員も相当数今度組織変更で南部口からかなり通う人が出てくるのではないかと、それだけでも交通量も非常に多くなりますし、早目というか早急にひとつ事業を進めていただくように、ぜひお願いをしたいと思います。

それと、除雪体制についてお願いします。

○議長（浜口鶴蔵君） 佐藤建設課長。

○建設課長（佐藤一富君） お答えいたします。

本年度の、ことしの冬の除雪計画でございますけれども、例年のとおりといたしますか、それにも増して例年のとおり除雪をことしも行うわけでございますけれども、例年にも増してきちんと除雪をするように

計画を今しているところでございます。除雪作業に入りますと早朝ということもありまして、市民からの皆様の協力を得て実施していかねばならないという部分が多々あるかと思えます。特に路上駐車とか放置自動車、そういったものにつきましてはご協力をお願いしたいと思います。市民の日常生活とか産業活動の安定を図る上で、交通の確保に努めてまいりたいと思えます。よろしく申し上げます。

○議長（浜口鶴蔵君） 島倉武昭君。

○6番（島倉武昭君） 建設課長、昨年も建設課長だったので、私は同じ質問した。今まで旧町村時代には地域差があって非常にまずい、市になったら除雪ぐらいは市で一律にできるかと言うたら、答弁で今までは20センチの積雪で対応していたが、市では15センチで対応すると、こういう返答をいただいた。ところが、今年2月2日、1日の晩から2日にかけて非常に1日で今まで数年来の積雪があった。そのときに私は4回電話をしました。その除雪の担当範囲が支所にあるのだから本庁にあるのだから、全くチンプンカンプン。私以外にも地元で2回電話した。まだ午後になってもやっていない、もう一回電話してくれと言うて、わざわざ車で私のところへ来ました。私が電話をしたら、いやそれはちゃんと重機は配置してあるのだけれども、運転手がおらぬと、そういう返事だった。ということは、その除雪の系列と申しますか、だれがどういうふうにして行くのだと、今言われたことができていない。課長が言われる除雪体制は、今佐渡テレビ見れば朝晩道路に車を置かないでくれ、協力してくれということは放送しております。ところが、いざ災害となると、いざ雪が降った場合にどういう形で、どこへ連絡するのだという、その地域割の図面も何もありません。昨年は朝4時に出て7時までには終わる予定だというご答弁だったが、それができていないということで、私は今回またあえて質問をしたわけなのですが、そういう組織、その地域の除雪は支所に任せてあるのか、それともその最高責任者は本庁でやっているのか、そのあたりのきちんとした構図はあるのでしょうか。

○議長（浜口鶴蔵君） 佐藤建設課長。

○建設課長（佐藤一富君） お答えいたします。

除雪につきましては、各支所を単位にしまして行っております。それで、それぞれ除雪会議というのがあります。この会議というのは、本庁でとにかくどういった統一見解と申しますか、除雪はこういうふうにしてやりませんかということで、申し合わせ会議が既に終わっております。この後支所の段階で今度委託業者等に先ほど言いました早朝4時ごろから7時ごろまでを基本として作業するのだよと、ただ日中にもわたる場合もありますというようなことで、それぞれ委託の内容につきまして打合会を既にほぼ終わっておりますが、あと12、14ぐらいに、あと二つの支所がまだこれからというところもありますが、それを除きましてすべて委託業者とは除雪会議を持ちまして通知しているところでございます。

以上です。

○議長（浜口鶴蔵君） 島倉武昭君。

○6番（島倉武昭君） 今の答弁ですと支所だということなのですが、その支所と、それでは業者が悪かったということなのではないかと、そのあたりを全部支所に丸投げして、除雪の本体はこういう行政でいくと業者とは本庁はきちんとした約束をして、そしてその後連絡等は支所に任せると申すのがこの構造改革をしていく流れの中で一番いいのではないかと、支所に任せておるので、支所は何でもやれということではやっぱり業者任せだということではまずいのではないかと、私はこういう組織改革をして本庁主導になれば業

者を指導するのは本庁であって、その連絡をとるのが支所であるというように思いますが、違いますか。

○議長（浜口鶴蔵君） 佐藤建設課長。

○建設課長（佐藤一富君） お答えいたします。

業者を本庁に呼んでということでございますけれども、各支所除雪路線かなり、今ちょっと資料、各支所の除雪路線用意してございませんけれども、例えばここにある金井の本庁管内でございますけれども、12の業者をお願いしております。これと同じぐらいほかの支所につきましても10社程度あるかと思えます。それで、基本的な考えというか、除雪の体制というものを本庁でこれは毎年必ずやっております。業者の委託単価もあわせて、どういうふうにかくべきかと、かいていくのだというようなことは、これがまさに本庁の役割だと思えますので、これをきちんとやっております。その上で、支所が各支所の単位で除雪会議というものを各業者にきちんと説明し、それぞれ除雪の計画の路線図というのをあろうかと思えますし、各支所持っております。これを各業者にも配布してありますし、それぞれの分担があります。そういったことで、各支所にとっては各集落の区長さんや集落長さんにこういったことで除雪しますというような広報も行っているかと思えますが、そういったことでよろしく願いいたします。

○議長（浜口鶴蔵君） 島倉武昭君。

○6番（島倉武昭君） 流れはわかっておきますが、実際にそれが行われていないのが現実なのですが、その辺はひとつことしの冬期間については、また来年私が同じことを質問しなくてもいいようにぜひ徹底した除雪体制をお願いしたいと、こういうふうに思います。

それでは、最後に教育関係について二、三お伺いします。今教育長さん学校等が多いと、いろいろの問題があるということで行けないという、しかしやはり私がなぜこれを聞いたか、市長の祝辞を学校の教頭が読むのです。そこへ中学生ならまた話もわかりますが、そこへ初めてよちよち出た小学生を前にして幾ら偉い大臣の祝辞であっても教頭が読めば、だれも市やそういう上からもらった祝辞とは思わないのです。教育委員会なり第三者が行って読めば、ああそうだなという気もするかと思えます。これがいいとは言いません、今こういう時代で簡素化、行政のスリム化ということでのいるわけですが、昔は小学校、中学校の卒業式には地元の区長から郵便局長から農協組合長まで出たのです。それが今私たちが思うと一番いいことなのです。少子化してくる子供にやっぱり地域の大人が溶け込んで入ると、大人が子供から離れてはいい教育はできぬと思えます。教育が今非常に荒廃していろいろの暴徒化が低学年化しておる中で、やはりその一つは大人が、ここで言うと教育委員会なり長なりが現場から逃げておらない。それを補うために学校では父兄会のほかに年に1回なり2回なり総合学級、じいさん、ばあさん来いと、そして何か教えろと、何か話をさせろという、家族が分散しておじいさん、おばあさん、そういう年配の方のいい点が全然子供に伝わっていない、だから子供がテレビだけ見、つかまっているいろいろな問題を起こすと、そういう中でやっぱり小学校の入学式、卒業式ぐらい、卒業式は余計なのですが、行って市で励ましてやってほしい、そしてまたそうすることによって、やっぱりまたおれも大人になったら佐渡市へ帰ってこようかなという思いを中学生ごろから植えつけていかなければ、佐渡市になったら教育委員会も来ぬ、市長も何もお祝いも来ぬ、教頭がばばっと読んで終わってくるような佐渡なら帰る必要はないやというところへつながるのです、子供は。そういうところをひとつぜひ考えてほしい。生涯学習も大変でしょうが、生涯学習は大人を主体になっていきそうですが、ひとつ教育長どうですか、そのあたりのこれからの推進方法、お考えを

聞かせていただきたい。教育委員長、お願いします。

○議長（浜口鶴蔵君） 豊原教育委員長。

○教育委員長（豊原久夫君） お答えいたします。

先ほど教育長が言われましたように、教育委員会といたしましては学校数が多いからということでそうなっているのですが、本当は行ってじかにお祝いしてあげれば一番いいわけですが、それはできない状況ということもまたひとつご了承願いたいと思うのです。

それはそれとしまして、やっぱり子どもも例えば今学校でサポート委員会というのがございますけれども、そういうようなときに呼ばれたときには行って、そしていろいろ子どもの目線でもって考えたことについて助言申し上げております。例えばよく学校であいさつ運動という、そういうようなことやっているのですが、ただ声をかけて「こんにちは」ということだけでいいのかどうか、やはり地域の方にお会いしたら、その地域の方も子供たちにプラスワン言ってほしい。また、子供もただ「おはようございます」ではなくておじさんとかおばさんとか、そういうような温かい交流の会を瞬時でいいから持ってもらいたいという、そういうような助言といえますか、聞いたことについて子どもも言っております。そんなにして、ただ単に卒業式、入学式ばかりでなくて、いろんな面で配慮しているつもりでございますので、ただ一場面だけでなくもう少しご配慮願いたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（浜口鶴蔵君） 島倉武昭君。

○6番（島倉武昭君） 非常に広域になって大変だという意味もわかります。しかし、私がなぜ学校数を聞いたかということなのですが、今教育委員会は教育長始め5人いらっしゃると思います。中学校は一番大きな両津で5校です。1人が1校ずつ持てば教育委員が堂々としてお祝いを言える立場にあるのではないかと、それを広域化して難しいからということになればそれでもいいのですが、そういうことも一つは考えられるのではないかと。

それから、以前両津市さんが、旧両津市だからよかったのですが、恐らく旧町村のときには学校が三つ、四つあっても午前と午後に中学校を分散させてまで旧町長、助役が出てお祝いをしておる。また、小さな学校は教育委員会なりの方が来て、毎年かわってくるわけです。そうすると、子供は去年来たあのおじさんはうまいこと言うたな、ことしの下手だったなとか、それがまた一つの子供の非常にこれからのあれにいいのです。それを教頭が市長の祝辞を読みますと、やっぱり場にならぬと思います。

最後に、時間も来ましたので、一つ市長に提案をしたいと思います。あの祝辞をどうして市長が書いて、36校へ配るのだと思いますが、それであったらこのマスコミの時代、各学校にはテレビがあります。ビデオに入れて、そして一部ずつやればですし、またテレビケーブルが入ったところであれば一斉に10時15分から市長の祝辞がありますと言えば、両津、畑野、金井、相川以外は一斉に流れるわけで、この放送が流れるのです、その区間に。それが可能だと思います。市長、どうですか、この考え、ひとつお願いします。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） なかなかいいアイデアだと思います。教育長に聞いてみないとわかりませんが、私の方はいつでも結構です。

○議長（浜口鶴蔵君） 島倉武昭君。

○6番（島倉武昭君） 快く市長は私の提案を受け入れてくださった。教育長、どうですか、そういう形で

今後進めて、せめて小学生の小さいよちよち歩いてくる1年生にらちあかなければテレビでも市長の顔を見せると、教頭が読んだのでは何にもならない。皆さんそうでしょう、それなら逆に時間もありませんが、言いますが、市でやる行事に来賓を呼ぶ、来賓が代理を出してくれれば来賓として非常にありがたい、盛会になるが、その来賓が来ずに3通の祝辞が来て助役がかわってその祝辞を読んだときに場になりますか。やっぱりそれは例えが悪いかもしれません。それと同じことです。やっぱりそこへ出てにぎやかに盛り上げてやって初めて子供ですから喜ぶのであって、それから市の行事にしても竣工式にしても地鎮祭にしても、各議員があれに出す、そのときに祝辞を来てそれを今まで助役、総務課長が読んだ例がありますか、ないでしょう。必ず代理の方が来て壇の上で読んでもらって初めて皆さんが納得して盛り上がることであって、それもひとつ考慮していただきまして、時間はありませんが、教育長の考えをお聞きします。

○議長（浜口鶴蔵君） 石瀬教育長。

○教育長（石瀬佳弘君） 映像の面はちょっと考えつきませんでした。かつて私子供たちの、卒業生の映像を映してというようなことやったことがありますので、できないことはないと思いますので、検討させてもらいたいと思います。情報化の時代にいい提案をいただきました。検討させていただきます。

○議長（浜口鶴蔵君） 島倉武昭君。

○6番（島倉武昭君） 時間もなくなりました。つまらないことを言いましたが、非常にいいご返答をいただきましたことを感謝しております。どうもありがとうございました。

○議長（浜口鶴蔵君） 以上で島倉武昭君の一般質問は終わりました。

ここで10分間休憩いたします。

午後 4時10分 休憩

午後 4時20分 再開

○議長（浜口鶴蔵君） 再開いたします。

次に、金子克己君の一般質問を許します。

金子克己君。

〔44番 金子克己君登壇〕

○44番（金子克己君） 通告してある事項につきまして一般質問をさせていただくわけですが、私は市民の何人かから、どうも議会の一般質問は時間が長過ぎるというお小言をいただいております。それで、先般から同僚議員ともども私たちに与えられた45分を私は30分に区切って質問したいと思っております。そのために、私も簡単明瞭に質問します。答弁の方もひとつよろしく簡単明瞭にやっていただきたい。合計で、できれば私は1時間で質問を終了したいと思っております。まず、宣言をして質問に移らせてもらいます。

市や企業が事業の推進を進める中で、時として地域住民の理解を得られず、その事業がストップする事例があります。地域の方々は、当然暮らす地域を守る、家族の平穏な生活、安心、安全な環境を求めの中で、住民説明会を要求し、その話し合いの中で事業の推進を認めることを余儀なくされているのが現状ではないでしょうか。住民は、最後の手段として協定書、立会人を求め、約束事を支えに信頼し、受け入れてきています。私は、この住民の地域環境を守ろうという願いを託した協定書等が本当に行政によって住民の信頼にこたえるべく監視し、約束事が守られているかと自信を持って言えないのではないかとこのよ

うに思っております。また、そのことについてこれから質問をさせていただきます。

市は、公害防止等の協定書の立ち会い、約束事に対する基本的な考えをお聞かせをいただきたい。また、私はスタンスを地域住民側に軸足を置いて進めるべきと考えておりますが、市長の考えはいかがですか。市が確認している公害防止協定書、立ち会い、約束事の件数、内容、定期立ち入り状況、遵守事項の違反と指摘されていること、それをどうして改善したかを個別に報告を願います。

合併後の旧市町村の協定書等を管理する窓口は一本化していたのかをお聞かせ願いたい。また、していなければ今後はどうするのかもお答えいただきたい。

旧真野町の関係した協定書、立ち会い、約束事についてお聞かせをいただきたい。C社との公害防止協定書の真野支所よりの資料報告に、企業との信頼関係の上、締結されているので、守られているとの報告ですが、市長、これでよいと考えていますか。企業進出、受け入れの際に市長も地域住民代表2名を含め議員とも10人余りで、私も脱臭装置を埼玉の先進企業、木元へ見学し、臭気排出口で無臭を確認し、地域住民説明会では臭気は一切出ませんと説明し、進出したC社も無臭公害を宣言したはずですが、操業当初からトラブルがありましたが、現在はもちろん排出口で無臭であると考えておりますが、答弁願います。においありとの答弁ですと大変なことになります。ごみ最終処分場の契約者、甲が広域圏であり、乙が6団体で、立会人が旧の真野町でございました。合併後は、甲も立会人も佐渡市では、地域住民の理解が得られないのではないのでしょうか、どのようになっておりますか、お聞かせ願いたいと思います。

相川支所管内の戸地川の採石問題についてお聞かせをいただきたい。災害、公害防止協定が採石企業が提出した請願書、平成12年10月12日付、協定第4条3項削除の願書が翌日の13日に当時の町長は地域住民の意見も聴取せず、これを一方的に認め、削除を公表しました。これが正しいことか、お聞かせを願いたいと思います。

また、戸地川の河川管理も採石許可も県ですが、採石現場前の河川敷側に積まれた置き採石は違反行為にならないのか、これもお聞かせ願いたい。戸地川沿い1号橋の工事は現在行われておりますが、何のためにやっているのか、また残り4橋については計画があるのかをお聞かせ願いたいと思います。

これらの協定書や約束事から受け取れることは、行政不信、企業不信、すなわち地域住民との信頼関係に認識のずれを生じさせております。このことが西二宮地区の中間処理施設の進出に地域住民の企業に対しての不信感を与えている一因ではないのでしょうか。また、行政に対しては軸足を企業側に立ち入っているように見えるのではないのでしょうか。この問題の現在までの経緯と今後の見通しをお聞かせを願いたいと思います。

会議時間の延長

○議長（浜口鶴蔵君） 会議の途中でありますが、あらかじめ申し上げます。

本日の会議時間は議事の都合により延長いたします。

○議長（浜口鶴蔵君） 金子克己君の一般質問に対する答弁を許します。

高野市長。

〔市長 高野宏一郎君登壇〕

○市長（高野宏一郎君） 金子議員の質問にお答えしたいというふうに思います。

公害防止等で地域住民、C企業との間で結んだ協定について住民不信との関連で、市が協定書等に対して基本的にはどういう考え方を持っているのかということでございました。公害防止協定というのは、地方公共団体や地域住民団体等が公害が発生するおそれのある活動を行う事業者との間において、公害防止のためにとるべき措置の内容について取り決めを行ったものでございます。公害問題というのは、非常に地域的な性格が強いわけですが、画一的な法律では実態となかなか合いづらいということでありまして、やはり個々の実情に即したきめ細かい公害防止の対策を適切に行うことを目的として公害防止協定締結を行うのが普通でございます。もちろん公害防止協定を締結し、住民の不安を取り除く、このことは企業側から見ても、もちろん住民側から見ても重要な意義があるのではないかとというスタンスであります。

それから、市が確認している件数、内容についてということでございますが、これについては担当者から説明させますし、協定後の遵守されているか、立ち入り等が定期的実施されているか、これも担当から説明させます。

西二宮地区の中間処理施設についてのご質問についても、担当からお願いします。

今後の協定等の管理窓口はどうするのかということで、戸地川の採石問題と真野地区の各協定書の扱いについてご質問がありましたので、これも担当者から説明させますが、やはり我々は協定書がどういう形であるかは別にして、市がその中に入っている、あるいは入らないにかかわらず、市民サイドの目でこの問題に対して対応したいというふうに思っているところでございます。

質問はこの1点でございますので、詳細説明だけは担当者にさせます。

○議長（浜口鶴蔵君） 大川環境保健課長。

○環境保健課長（大川剛史君） お答えいたします。

議員ご質問の市が確認している公害防止協定等の件数、内容についてでございますが、現在市で確認しております公害防止協定書、または覚書等の件数は52件でございます。そのうち、市が当事者となって締結しているものが41件、市が立会人となったものは11件となっております。その主な内容といたしましては、市の廃棄物処理施設も含めまして廃棄物処理施設に関するものが13件、岩石の採取、採石場に関するものが10件、工場の立地に関するものが8件、ゴルフ場に関するものが4件などとなっております。

続きまして、協定の締結後、遵守されているのか、立ち入りが定期実施されているのかということでございますが、市ではそれぞれの協定に定める内容に従いまして環境の測定結果の報告や立入検査の実施、または市の廃棄物処理施設につきましては公害防止監視員の委嘱でありますとか、公害防止協議会の設置などにより公害の防止に努めているところでございます。具体的な実施状況につきましては、関係支所長の方からお答えさせていただきたいと思っております。

続きまして、今後の協定書の管理窓口をどうするのかということでございますが、公害防止協定につきましては現在所管といたしましては、私も環境保健課ですとか支所の市民課のほか、企業誘致などさまざまな政策の推進によりまして締結されたという経過がございますので、支所の地域振興課で所管しているものもございます。ですので、この課につきましては、今一元化という形にはなってございませんが、公害防止と公害対策ということでございますので、その件に関しましては公害所管課でございます環境保健課と連携しながら適切に対応をとっていきたいというふうに考えております。

なお、最後に西二宮地区の廃棄物処理施設の建設についての問題でございますが、この問題につきましてはご承知のとおり平成16年の夏ごろから地域の苦情に対しまして、市では地域住民の皆さんや事業者や、その他関係者の方々といろいろ調整を図ってまいりました。まだ現段階では十分な合意までには至っておられないところでございます。しかし、施設の建設は既に終了しておりまして、この結果市の調整によりまして事業者は12月から地元の了解をいただきまして、4トン車で自ら排出した廃棄物、いわゆる自社物と言われるものですが、これの搬入と処理を開始しているところでございます。なお、この廃棄物処理施設の本格稼働に当たりましては、さらに地域住民の皆さんの生活環境の保全でありますとか交通の安全のために、それらに関します協定を締結することによりまして、市としましても必要な監視、調査を行うことによりまして、地域の皆さんが信頼をいただけるような形で解決を図っていきたいというふうに考えておるところでございます。

以上でございます。

○議長（浜口鶴蔵君） 3支所長から答弁を許します。

初めに、相川支所長。

○相川支所長（大平三夫君） お答えをいたします。

相川支所管内では、戸地川岩石採取にかかるものとして事業者と市との公害防止協定と協定書が1件と市が立ち会った地域集落と事業者との覚書の1件の2件があります。協定書の内容であります。公害防止はもとより、市道の利用とともに交通量が增大することが懸念をされるため、住民の交通の安全と生活環境保全確保を図るため、災害及び公害防止協定を締結をしたものであります。定期立ち入り状況であります。定期的な実施はしておりませんが、地域住民からの苦情の都度や大雨時には随時状況調査を行っております。

遵守事項の違反については、2点違反行為がありました。一つは、まずさきに述べましたが、交通量の増大に伴う待避所の設置について義務づけが守れなかったということ。二つ目には、橋梁の安全確保について、協議中の段階で一方向的に重機を通過させたということでありまして。この対応についてであります。事業者に対して市は協定の遵守についての通告をして、文書で回答と道路及び橋梁の安全に努めるよう指示を行っております。

次に、覚書についてであります。関係集落と事業者が市の立ち会いのもと、平成15年9月採石期間延長に当たり調印されたものであります。内容については8項目となっております。主なものは次のとおりでございます。

一つは、認可面積以上の拡大採石はしない。二つ目でございますが、認可期限は最長5年、事業はその後延長申請はしない。三つ目、採石事業からの撤退後、事業者は地主との協議で採石権契約を解約をする。四つ目、石の搬出には4トン車を使うということになっております。なお、調印後は何のトラブルもなく現在に至っておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（浜口鶴蔵君） 山本真野支所長。

○真野支所長（山本真澄君） お答えいたします。

旧真野町が公害防止協定を締結しておるのは3件でございます。ほかに関係集落と協定書の締結について、行政が立会人になっているのが最終処分場というようなことで1件、計4件でございます。各状況につきま

して説明申し上げます。

A社、製造工場でございますが、今まで特に地域との問題もなく、立入検査も実施されておられません。

次に、B社、ゴルフ場でございますが、年に1回定期的に水質の調査を実施しております。特に現在まで問題は起きておりませんが、前会社が現在倒産したために、新会社と引き続いて協定書を締結することで、現在話し合っておる最中でございます。

次に、C社、製造工場でございますが、年に1回立入調査を実施しています。本年4月に地域の住民から臭気に関する苦情があり、C社には脱臭装置、運転方法、検討、そして改善に取り組まれるよう指導しております。さらに、企業では本年の5月に脱臭装置2号機を増設いたしまして、臭気ガスの濃度の低下を図っています。また、家用車の騒音対策についても、従業員に徹底した指導をしている旨報告を受けております。C社につきましては、今後とも公害防止協定に基づき、地域環境保全のために本庁、支所間連携をいたしまして、指導していきたいと考えております。

次に、最終処分場でございますが、広域圏と関係する4集落、そして土地改良区事業協同組合との協定書締結に真野町が立会人になっていたものでございます。この施設につきましては、市町村合併によりまして広域圏から佐渡市に引き継がれてきておりまして、毎年定期的に立入検査を実施しております。現在まで業務の内容で特に問題は起こっていませんが、最終処分場における真野町の廃棄物については当初の予定よりも廃棄物の量が多かったことによって、基準の高さより4ないし5メートル高く積み上げて処理がなされております。現在は分別、そして被覆土として利用され、管内道路よりも1メートルぐらい高さになってまいりました。当初計画では、供用開始から7年ぐらいをめどにして処理する計画になっていました。今後は、埋め立て処分の覆土状況を見ながら完成後廃棄物の飛散、流出を防止するために緑化をお願いしていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（浜口鶴蔵君） 清水佐和田支所長。

○佐和田支所長（清水紀治君） お答え申し上げます。

先ほど大川環境課長の方からご説明申し上げましたとおり、12月から営業を自社物で再開しております。そういったことで、地域住民の生活環境を保全するという立場から市の立ち会いのもと、交通安全、環境保全に関する協定書を今後は速やかに協定していきたいというふうに考えております。よろしく申し上げます。

○議長（浜口鶴蔵君） 金子克己君。

○44番（金子克己君） 宣言をしたものですから、持ち時間あっても1時間で答弁とも終わりたいと思っておりますので、私の方からまず答えておきます。

市長、真野のC社、臭気、これ市長も先ほども私言いましたように、市長も私も埼玉の木元という印刷工場へ行きまして脱臭口でにおいかぎましたよね。何もなかった、そのまま地域住民に説明をしました。市長も当時真野の町長で、地域住民に絶対無臭ですと、結果的に臭気が出ています。ぜひ対応をしてもらいたい。

それから、ごみの処分場につきましても、住民説明では平らにして公園化するのだというのが地域住民の説明会です。これ市長が言うたので、私たちもそれをもとにして議員で地域住民に説明をし、了解をお

願いで歩いてわけです。しかし、現状は5メートル、現在大分覆土に使われておりますけれども、議会での答弁でも、あれは2年で覆土に解消するという事です。あれからもう何年たっています。先ほど支所長も言いましたけれども、今後はまた7年ぐらいかかるというのだ、ぜひそれも約束どおりやるようにしてもらいたい。ましてや広域圏と地域の集落とが甲乙の関係で公害防止協定を組みました。この立会人、当時の真野町です。契約者も立会人も今度一本化するのです。数で言えば2対1になってしまうのです。今まで集落のために真野町が広域圏といろいろな条件をつけて公害防止協定を組んでもらっていたのを、今度は地域住民と佐渡市が相手やらなければならないわけです。今のところは、毎年1回のいろいろな話し合いが行われて順調にありますけれども、事起きたときには先ほどの覆土の件に関しましても、今まで真野町が地域住民の代弁であったわけですから、今度は地域住民しか言う者がなくなったわけです。ぜひそのことも軸足を集落側に入れて、地域住民の声を佐渡市のごみの最終処分場の公害防止協定でぜひ生かしてもらいたい。定期的な立ち入り等も常にやってもらいたいということをお願いしておきます。時間が無いものですから、戸地川一本について聞かせていただきたいと思いますが、どうも私すべての公害防止協定、覚書というものはその場しのぎのために簡単に企業や市が仲立ちしながら調印しておるように見えて仕方ないのであります。当時の戸地川の協定書は、県は町の方へ意見を伺うために企業から出された申請書をおろしたわけです。しかし、町は地域住民の声を聞かずに、よろしいと言うてそのまま県へ上げて、そして結果的に認可がおりたというように私はとらえておるのですけれども、これについては市長はどのようにとらえておりますか。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） 非常に微妙な問題でございまして、この問題について私も当初から立ち会ったわけでありませぬので、このいきさつ、内容については担当者から答えさせたいというふうに思います。

○議長（浜口鶴蔵君） 大平相川支所長。

○相川支所長（大平三夫君） お答えをいたします。

先ほども説明の中で述べましたが、この協定書の第4条3項の削除の件でよろしいでしょうか。

○44番（金子克己君） 県が採石場の認可をおろしたのは、相川町の意見があったからだというようにとらえております。

○相川支所長（大平三夫君） そのとおりでございまして、県の方から認可に対しての旧相川町に対する意見が求められまして、それについては事業者との協定をした、いわゆる協定をしてこういうことで旧相川町はやりたいと、意見として協定書を添付しております。これについては、事業者との協定でございませぬので、地域住民との意見は聞かなかつたことは、それでいいのではないかとこのように私どもは考えて添付書類として出したものと考えております。

○議長（浜口鶴蔵君） 金子克己君。

○44番（金子克己君） 今支所長の方から地域住民の声は聞かなくてもいいということになり、西二宮の問題は地域の住民の声は聞かなくてもいいというように私はとれるのですけれども、西二宮のことはまたこの後でやりますけれども、私がなぜこの戸地川の問題を今こうやって質問するかということ、この事件は平成12年の6月12日に県の許可がおりて、採石が既に終わり、そして間もなく見直しの時期にも来るわけですから、しかしどうもこのやり方が西二宮の中間処理施設の不信感を買うものになっているのでは

ないか、こういうやり方を協定書に対するこういう背信行為があると、どんな協定書もこれから事業を進出しようとしてもなかなか地域住民の理解を得られないのではないかという意味で、今回あえて戸地川の問題を出しておるわけでございます。しかし、戸地川の問題は終わったわけではないのです。まだ続いております。そのことで、また質問させていただきますが、先ほど私が冒頭で聞きましたように第1号橋のことについて聞きますけれども、今どういう工事をしておるのですか、今工事をしていきますけれども、何の工事ですか、あれは。

○議長（浜口鶴蔵君） 佐藤建設課長。

○建設課長（佐藤一富君） お答えいたします。

戸地の1号橋ということでございますが、現在橋梁の補修工事ということでやっております。これが本年度、17年度の予算で予算化されたものでありまして、現橋がコンクリートの欠落あるいは鉄筋むき出しというような下部の方の部分がそういったことになっておりまして、この補修工事ということで現在その工事を行っているということでございます。

○議長（浜口鶴蔵君） 金子克己君。

○44番（金子克己君） 今1号橋の現在の工事はコンクリートの欠落あるいは鉄筋の露出、市長こういうようになっておるのですが、これは重量オーバーの車が通るためにこうなった企業側の責任でやらなければならない事業なのでないでしょうか。これ担当はどこですか。

○議長（浜口鶴蔵君） 佐藤建設課長。

○建設課長（佐藤一富君） お答えいたします。

戸地1号線でございますけれども、戸地川沿いの戸地1号線という道路にかかるものであります。この道路は昭和28年に金泉森林組合が延長約2,000メートル、幅員4メートルというようなことで開設されて、昭和62年に当時町道戸地1号線ということで町道認定されたということになっております。この橋は構築されてから52年というような経過もあります。そんなことで、当時平成10年に旧相川町の方で耐久度調査というようなものをした経緯がございます。そういったことで、いわゆる時もたっておるといようなことで、こういった状態になったというふうに思います。しかも、この路線には五つの橋がかかっておりまして、ちょうど海岸線沿いにあるというようなこともありまして、あと4橋あるわけでございますが、この橋につきましては今のところ補修はなく、今の現在の状態では補修計画は持っておらないというような状態でございます。安全に交通確保するために今回の17年度の予算の中で補修をさせていただいたというものでございます。

○議長（浜口鶴蔵君） 金子克己君。

○44番（金子克己君） 平成10年にこの橋の耐久調査をこの採石の許可に絡み調査をした時点で、この橋の標識は4トンでした。現在8トンになっておるのです。耐久に耐えられるということで8トンになったのでしょうか。老朽化どころではないです。しかし、この8トンのところに現在上流に採石現場に23トンのショベルカーが2台上がっております。どういうことなのですか。これ既に終わったことなのですかけれども、あえて聞かせてもらいたいです。23トンのが8トンのところを老朽化しておるといいながら、4トンであったのを8トンに変えておいて、その8トンに23トンの車が2台も上流へ上がっております。そのおまけに、現在これを採石を運び出すのに4トン万が満車にして出しておるのです。毎日何台と通って

おるのです。建設課長の答弁はわかりました。

それなら、また次の質問に入ります。ここにこれ橋、路盤です。違う橋です。戸地川には五つの橋がありますが、これが3号橋です。このとおり橋の路盤がずたずたなのです。戸地川沿いのこの道は林道ということで、農作業車が通る程度なのです。しかし、このダンプが通るようになってからこういうような状態になっておって、これ3号橋です。企業の責任ではないのですか。今課長のような答弁をするから、地域住民は信頼しないのです、行政や企業を。全く戸地川のこの問題は、1号橋にしても、この3号橋にしても、企業寄りの行政を進めておるように私には見えて仕方ないのです。

まだあります。その上の4号橋、4号橋の欄干が壊れています。このとおり壊れています。市長、壊れておるのです、欄干が。これも私尋ねましたら、それは自然に古くなったから壊れたのでしょうかというのです。でも、コンクリのはげているのが白いのです。古くなって壊れたのではないのです。これも聞きますと、これでもまだ認めないのです。私が現場を写真写したらタイヤ痕がちゃんとついておるのです。この欄干にぶつかっておるタイヤ痕、大型車のタイヤ痕がここへついておるのです。市長、いかがですか。市長、これでも企業に責任ないというのですか。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） 寡聞でその事実を知り得ていないのですが、それについては企業の責任でないと言ったのはだれだったのでしょうか、聞かれたのは。その件も含めて、それではいきさつをちょっと説明させます。

○議長（浜口鶴蔵君） 大平相川支所長。

○相川支所長（大平三夫君） お答えをいたします。

4号橋の橋の破損の関係でございますが、私どもも確認をさせていただきましたが、今のところ原因車が特定をされるというか、特定をすることがちょっと困難な状況でございます。そういうことで、ご理解をいただきたいと思っております。

○議長（浜口鶴蔵君） 金子克己君。

○44番（金子克己君） 先ほど戸地川には定期的に入っているという答弁でなかったのですか。実はこの4号橋の欄干の破損は2年前からなのです。私が指摘するまで認めなかったでしょう。私はこの前、今から2週間前に言うたぐらいですから、これは2年前から破損しておるのです。定期的にも雨のたびに、あるいは定期的に入っておるという状況ではないでしょう。まだ言うことになれば河川敷の前に置いてある置き石だって、これ違反でしょう。違反なのでしょう。2カ所置いてあります。洪水になったときには、この置き石がすべて流れるのです、川に。河川区域といって、たとえ私有地であっても水があふれたときにそこへ行くということは河川区域になるのです。そこに置かれている石は違反なのです。ただ今回これは採石の面積外になって該当だという県の答弁だそうですが、洪水のもとになるのです。この置き石しておるところ、河川区域内に置きますと。ましてや、いやこれは一時的に置いたのだと、置き石だから一時的に置いたのだという話がありましたけれども、草が生えて、草がもう枯れておるのです、このとおり。仮に置いた石ではないのです。また丁寧に2カ所とも違うのです。この山になっておるところは、砂まじりの石です。それから、あと1個の方は製品になっておる石を置いてある場所です。これは、災害時洪水のもとになります。ぜひ許認可を与えた県に言って業者に撤去してもらうように指導していただい

すか、これは支所長お願いします。

○議長（浜口鶴蔵君） 大平相川支所長。

○相川支所長（大平三夫君） 河川敷に砂利等を積んでおりますが、これについては仮置きという私ども解釈でありまして、議員からこれは規則違反になるのではないかということがございまして、きのう地域整備部の方へ照会をいたしました。地域整備部の方では、河川敷としての規則には違反はしないが、岩石採取許可申請区域外ということであるので、許可権者が新潟県でありますので、新潟県の方から撤去の指導をしたいという回答をいただいておりますので、ご了解いただきたいと思います。

○議長（浜口鶴蔵君） 金子克己君。

○44番（金子克己君） 協定書は佐渡市とこの企業とで結んでおるわけです。県の方は協定書には関係ありません。この協定書の第9条は立入調査等ができるように書いてあります。ぜひ立入調査を常にしまして、これを機会に定期的に立入調査をし、違反行為は見逃さないでいただきたい。今も現在も戸地関係集落では、この採石には反対をしております。認めてはいません。しかし、当時の町長が私には独断でこの協定書を結んだに見えます。例えば市長、こういう協定書を結ぶときには、高野市長個人と企業と結びますか。議会にも報告しながら、この協定書を結びますか、どちらですか、お聞かせ願いたい。高野市長がその立場になったらどうしますか、お聞かせ願いたい。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） 詳しいそこのところの背景が頭の中に入っておりませんので、その答弁はちょっと控えさせていただきます。

○議長（浜口鶴蔵君） 金子克己君。

○44番（金子克己君） 高野市長、日がたつと違うことを言うのですか。私は、これに似た質問を真野町の議会のときに、あなたにさせていただきました。市長は、当時の真野町長であった高野宏一郎氏は何と言ったのでしょうか。これは、典型的なやってはならない行為をしたのではないか、私ならこういうことはしませんと、私の議会答弁にあなたはしたのではないですか。市長になると違うことを言うのですか。私議会報もコピーして持ってきています。あなたは必ずそう言うと思って持ってきたのですが、どうですか。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） 真野町の町長と、また市長とは違います。

もう一つ、今私が申し上げたのは相川のそのときの背景がよく見えないので、今回は差し控えさせていただきますということでもあります。

○議長（浜口鶴蔵君） 金子克己君。

○44番（金子克己君） これ以上このことに突っ込みませんが、背景がわからないで真野の議会のときには私に答弁をしたのですか。議事録にも議会報にも残っておるのです、はっきりと。それならついでに聞きますけれども、本当はこれ聞きたくなかったのですけれども、今のちょっと似通っておるのですけれども、協定書の一部を削除をした経過があるのです。というのは、200メートル間に1カ所の待避所を設けるという条項があるのですが、それはかなわなかった企業が、集落にお願いしてもなかなか分けてもらえないということで、その一部変更を企業が申し出まして変更したという経過があるのですが、これについては実は当時の町長は町長選挙で落選しまして、10月の1日だというふうに聞いておりますけれど

も、落選しまして、ところが任期が20日過ぎまでであったのです。その間に、13日の日にこの協定書を変更したという経過があるのですけれども、こういうときにも市長、高野町長だったらこれについても変更するのですか。任期はあるとはいいいながら、その10日前に本人は落選しておるのですけれども、いかがですか、こういう場合。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） また難しい問題で、仮定の問題についてはちょっと答えかねます。

○議長（浜口鶴蔵君） 金子克己君。

○44番（金子克己君） それなら違う方面で聞きますけれども、平成12年の10月の12日に企業側から200メートル待避所設置が不可能だから、これを協定書から削除してもらいたいという請願書が12年の10月12日に出されました。その翌日、12年10月13日に失職中の町長は、集落の意見も聞かずにこのときにも一部200メートルの待避所の条文を削除したということがあります。これは、正しいことと考えていますか、ぜひこのぐらいいは答えてください。これは、市長としてどう考えますか。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） 事実確認とその背景、突然でありますのでよくわからないので、事実がもし改ざんということであれば、当然それは大きな問題でしょうけれども、その事実が確認できないのでという意味です。

○議長（浜口鶴蔵君） 金子克己君。

○44番（金子克己君） 私は、市長、少なくとも二つの件、これはやっぱり典型的なやってはならない行為だということは、まず認めてもらいたいのです。私ならこういうことはしませんということを断言してもらいたいのです。

それから、あと一つ、こういう協定書の条文の書きかえ等があった場合には議会なりに報告をして了解をした上で、私は変えますというように宣言してもらいたいのですが、いかがですか。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） 非常に問題が複雑です。ただ真野町のときにそういうふうに私が言ったということであればあれなのですが、そのときも余り理解しないで言ったのではないかというふうに思います。いづれにしても議会との話し合いの中でやったことを変えるときには議会にご相談申し上げます。

○議長（浜口鶴蔵君） 金子克己君。

○44番（金子克己君） 何にも言うことないです、それは。ここにありますが、議会報があります。ちゃんと私コピーして赤い印してきたのです。町長、「戸地川の件は典型的な問題のある事例で、真野町では協定の内容変更については議会に諮ります」、あなたちゃんと言うておるのではないですか。どういうことですか。もう一遍答弁願います。

○議長（浜口鶴蔵君） 高野市長。

○市長（高野宏一郎君） ここにちょっと赤いサインペンでありますので、今申し上げたのですが、議会と協定をしなければいかぬようなことを議会協定なしにやるということはあるわけがないわけなので、私はそういうことはしませんということです。

○議長（浜口鶴蔵君） 金子克己君。

○44番（金子克己君） 私、西二宮の集落の方にこの中間廃棄物の問題について話を聞いたときに、戸地川の問題を当時の真野町長の高野市長は批判的にとらえておる。だから、西二宮の問題については必ず住民側について事を進めるはずだから、高野市長にまず相談するべきだということで、当時15年のたしか9月だったと思うのです。佐和田の支所の2階で、関係集落の父兄の方々に高野市長と当時新任した助役にも来てもらって話をしたと思うのです。それを地域の方も私も高野市長を信頼をしておるのです。それをあなた何ですか、今の言葉は。こういうことだから、いろんな事業の展開のときに起こる協定書あるいは約束事が守られないのではないのでしょうか。今回この中間廃棄物の問題が暗礁に乗り上げている原因は、私は企業より市長の方に原因があるのではないかと思うのです。今回このテレビを見ておる西二宮の方も戸地川の方も怒ると思います。もっと真剣に自分の言うたことには責任持ってください。私はあなたの言うたこと、市長、やめてもらいたいと言います、本当に。同じ真野です。もう少し市民の、住民に自分の軸足を置いた行政を少なくともその場限りの発言ではなしに、自分の言ったことには責任を持ち、実践をする市長であってもらいたいと思うのです。ぜひそのことをお願いをして、一般質問を終わりたいと思います。

○議長（浜口鶴蔵君） 以上で金子克己君の一般質問は終わりました。

○議長（浜口鶴蔵君） 以上で本日の日程はすべて終了いたしました。

本日はこれで散会します。

午後 5時22分 散会